

みち、ひと…未来へ。



ブランドネーム：NEXCO（ネクスコ）西日本

会社の英語表記「West **N**ippon **Ex**pressway **Co**mpany Limited」の頭文字の一部からとりました。このブランドネームは、同時に、私たちの姿勢や熱意を示した「みち」とともに、「みち」の先へーを表す「Next（次なる）」と、「Co（「共に」を表す接頭語）」の2つの語を包含しています。

ロゴマーク

NEXCOの頭文字「N」を3次元的に造形することによって、未来へと続く高速道路のダイナミズムを表すと同時に、「道进行すること」がもたらしてくれる心の躍動感を表しています。また、組み合わせるロゴタイプは、丸みと広がりを持たせたボールド書体によって、ゆとりのある道路空間を表現するとともに、高速移動中でも高い視認性を実現しています。

ブランドカラー「ネクスコ・ブルー」

西日本・南日本の海と空の明るさをイメージした、鮮やかで清澄感のある青色です。



表紙写真説明

第二京阪道路は、京都と大阪を結ぶ地域高規格道路として、2010年3月20日に全線が開通し、今年（2020年）で開通10周年を迎えました。
左の写真が1983年3月、右の写真が2020年2月にそれぞれ門真JCT付近を撮影したものです。



お問い合わせ先

西日本高速道路株式会社 本社 CSR推進課

TEL (06) 6344-4000 (代表) FAX (06) 6344-7183

インターネットからのお問い合わせ：

NEXCO西日本ウェブサイト (<https://www.w-nexco.co.jp>) から、[お問い合わせ] ページへアクセスできます。



NEXCO西日本グループレポート 2020

第二京阪道路全線開通10周年

[スローガン]

みち、ひと… 未来へ。

安全・安心・快適な高速道路が結び、
人と人、地域と地域。夢ひろがるアイデアと、
心のこもったサービスで新しい出会いや
喜びを生み出します。NEXCO西日本は、
100年先の未来に向け技術の革新と
新たな価値の創造に挑み続けます。

[3つのめざす姿]

- 高速道路に変わらぬ安全と、これまでにない感動を
- 地域を愛し、地域とともに生きる
- たゆまぬ技術の革新で、100年先の未来へ

目次

NEXCO西日本グループの使命…………… 1
トップメッセージ …………… 3
NEXCO西日本グループについて
事業エリア・会社概要・グループ会社 …… 5
NEXCO西日本グループのあゆみ… 7
NEXCO西日本グループの事業 …… 9
NEXCO西日本の成り立ちと
高速道路事業のスキーム…………… 11
中期経営計画2020 …………… 12
コーポレート・ガバナンス …………… 13
特集
特集1 災害対応力の強化 ……………15
特集2 高速道路の長期保全 ……………17
特集3 高速道路ネットワークの
機能強化……………19
特集4 SA・PAでの
お客さまサービス向上 ……23
特集5 安全・安心実施計画 ……25
ステークホルダーとともに
お客さま……………27
社会 ……………31
投資家・国民の皆さま……………35
お取引先 ……………36
グループ社員 ……………37
より広い社会、未来への働きかけ
環境保全 ……………39
社会貢献 ……………41
データ集
CSRの重要課題と取り組み状況 ……43
財務報告 ……………47
第三者意見 ……………49
編集方針・アンケート結果……………50

使用する略称

本レポートでは、「NEXCO西日本」「当社」は西日本高速道路株式会社を、「NEXCO西日本グループ」「当社グループ」は西日本高速道路株式会社とその子会社及び関連会社を含めたグループ全体を表します。
また、「高速道路機構」は、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構を表します。インターチェンジは「IC」、ジャンクションは「JCT」、サービスエリアは「SA」、パーキングエリアは「PA」と略記します。

グループ理念

私たちはリスクマネジメントを徹底し、
高速道路の安全・安心を最優先に、お客さまの満足度を高め、
地域の発展に寄与することにより、
社会から信頼され成長する企業グループをめざします。

グループ行動憲章（抜粋）

1. 法令や社会のルールを遵守し、いかなる場合であっても、決してこれに反する行為は行いません。
2. 自由で活発な創造的企業活動を、公正を旨として行います。
3. 一人ひとりがグループにおける自らの役割と権限を自覚し、その責任を全うするため、全力を尽くします。
4. 企業活動における情報の重要性を踏まえて、情報の入手と活用及び適正な取り扱いを常に心がけて行動します。
5. 5つのステークホルダー（お客さま、社会、投資家及び国民の皆さま、グループの社員、お取引先）の信頼に応えます。

グループのCSR活動方針

事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します

当社グループの最大のCSRは、本業（事業活動）を通じて社会の持続的な発展に貢献することです。具体的には「高速道路の安全・安心の確保と着実な整備」、「SA・PAでのお客さまサービスの提供」であり、それらを着実に実行することにより、社会の発展への貢献、ひいてはグループの成長につながっていくものと考えています。

ステークホルダーへの約束

私たちはCSRを推進させていくにあたっては、ステークホルダーとの対話を通じて当社グループへの期待を的確に把握し、事業活動のプロセスに組み込んでいくことを大切にしています。対話を通じて明らかになった社会的課題を、これまで培ったノウハウや資源を活かして解決していくことで、社会の持続的な発展に貢献していきます。

社会の持続的な発展 — NEXCO西日本グループの成長 —

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



より広い社会、未来への働きかけ

（ 経営を支える基本姿勢
コンプライアンス・リスクマネジメント・情報セキュリティ ）

これからも高速道路の
安全・安心を最優先に
社会から信頼され成長する
企業グループをめざします。



現下の経営環境

新型コロナウイルス感染症の急速な蔓延により、全国に緊急事態宣言が発令され、国民経済や生活は大きく制約を受けました。そのため、当社グループの料金収入やSA・PAの売り上げは、平成17年10月の会社設立以来最大となる落ち込みを経験しており、厳しい経営環境に置かれています。これからは感染拡大防止と社会経済活動の維持の両立が求められますが、世界中が手探りで模索し続ける、これまで誰も経験したことがない時代となります。

今後、政府の「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」などの施策も踏まえ、社会からの様々な要請や状況の変化に的確に対応していきます。

100年続く高速道路をめざして

このような状況にあっても、当社グループは24時間365日、我が国の大動脈として生活・経済活動に欠かせない重要インフラである高速道路の機能・サービスを間断なく提供する使命を担っています。

そのため、お客さまの走行安全性と快適性を高め、

道路構造物を安全にご利用いただくため、点検・診断や、名神集中工事をはじめとした各高速道路での補修工事を着実に進めています。

また、老朽化の進行に抜本的に対応するため「高速道路リニューアルプロジェクト」も計画的に進めています。今年6月には、中国自動車道 吹田JCT～中国池田IC間において、都市部としてははじめてとなる約2週間の終日通行止めを伴う工事を渋滞緩和のための様々な工夫をしたうえで実施しました。その結果を、今後の都市部の交通規制等に反映させ、引き続き社会的影響を最小限に抑えつつ高速道路の安全・安心を確保していきます。

高速道路における安全・安心実施計画

昨年12月に安全性・信頼性・使いやすさのさらなる向上を図るため、「高速道路における安全・安心実施計画」を策定しています。この中では、お客さまの安全・安心の確保、大規模災害時の早期復旧の支援等の観点から、暫定2車線区間のうち優先整備区間（約380km）について順次4車線化を進めていくこととしています。

さらには、将来の無人隊列走行システムの普及の実現を見据えた新名神高速道路の6車線での整備、世界一安全な高速道路の実現をめざした逆走対策等の交通安全対策、近年の激甚化する気象災害や高い確率で発生することが予測されている南海トラフ地震に備えた対策や強化修繕、休憩施設における駐車マスの拡充など利用者ニーズを踏まえた使いやすさの向上を着実に推進していきます。

中期経営計画2025の策定に向けて

本年は来年度にスタートする中期経営計画2025を策定する年ですが、現在のような非常に厳しい経営環境であればこそ、将来の技術革新や社会の変革に伴う自動車の役割などを見通しつつ、新しい時代の高速道路のあるべき姿をめざす計画としたいと考えています。

例えば、自動車の進化する方向性として「CASE」や「MaaS」が提唱されていますが、5年後は多くの技術が実現しているでしょう。アフターコロナではさらに新しい技術やサービスが出現するかもしれません。

道路管理の分野でも構造物の劣化診断や所要時間情報の高精度化にAIをはじめとするデジタル技術の活用が始まりました。今後ともデジタル技術の活用を業務改善、働き方改革のレベルまで高めるとともに、内外のステークホルダーのニーズに応える新たな価値の創造に取り組みます。

これらの取り組みを着実に進めるため、中期経営計画2025を策定し、社会においてさらに大きく貢献する企業集団への進化をめざします。

CSRへの社会の動きと対応

高速道路という社会インフラの機能をさらに高め、我が国の持続的な発展に寄与することがNEXCO西日本グループの理念であり、社会的責任（CSR）であると考えています。そして私たちは、事業活動を通じて、国連が採択した「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に貢献していきます。

おわりに

あらゆる事業活動を通じてお客さまや株主の皆さまをはじめ、協力会社や取引先、従業員、沿道地域の皆さまなど、様々なステークホルダーへの責任を果たすことに努めていきます。皆さまには、本レポートやNEXCO西日本グループの今後の活動に対して、忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

2020年7月

西日本高速道路株式会社
代表取締役社長

前川 秀和

Withコロナ時代に向けて

新型コロナウイルスの出現により、生活や働く環境に大きな影響を与えています。NEXCO西日本グループにおいてもこの影響が長期に及ぶことを前提として、感染防止と事業継続を実現するために、これまで取り組んできた「ダイバーシティ推進」の観点も踏まえ、業務の効率化や働き方改革を進めていきます。

「Build it Back Better（より良く再建する）」の取り組みとして、“デジタル改革”“働き方改革”を加速させることにより成長を続けていきます。

With コロナ：感染防止と事業継続を実現するため、改革による生産性向上を図り成長をめざします

デジタル 改革

タブレットPCのプラットフォーム構築

高速道路の維持管理の現場でタブレットPCを活用できるプラットフォームを構築し、各種情報のシステム間の連携を図り、生産性の向上をめざします。

ICT技術を活用した業務プロセスの効率化

BIM/CIMの活用をはじめ、ICT技術を活用した工事の遠隔立会いの導入など、業務プロセスの効率化をめざします。

3次元データのさらなる活用に向けた研究

高速道路空間の異常やその予兆の察知、日常の維持管理に3次元データを活用するため、さらなる維持管理技術の高度化に向けた研究を進めています。

働き方 改革

在宅等勤務（テレワーク）の推進

ICT機器のさらなる充実やweb会議システム、電子決裁システム等の一層の活用とともに、業務の進め方も工夫しながら、在宅等勤務（テレワーク）の推進に取り組んでいます。

柔軟な勤務時間の実現

効率的な業務執行や多様な社員の活躍促進を目的とした「時差出勤」の活用を積極的に行っています。今後、さらに利用しやすい制度をめざして取り組んでいきます。

NEXCO西日本グループのあゆみ ～民営化15年～

1956～2004

- 1956 日本道路公団発足
- 1963 日本初の高速道路
名神高速道路(栗東IC～尼崎IC間) 開通
- 1965 名神高速道路 全線開通
- 1970 日本万国博覧会開催
- 1980 磁気カード式通行券の実用化
- 1983 中国自動車道 全線開通
ハイウェイラジオ放送開始
- 1991 ロゴマーク(CI)の導入
- 1992 高松自動車道・松山自動車道・高知自動車道が直結
- 1995 阪神・淡路大震災発生
高速道路にも甚大な被害
- 九州自動車道 全線開通
- 1997 山陽自動車道 全線開通
- 2001 ETCの運用開始
- 2004 スマートインターチェンジの導入開始

2005～2010

- 2005 10月：道路関係四公団の民営化
西日本高速道路株式会社設立
- 12月：グループ会社の設立(以降、順次設立)
- 2006 4月：ブランドネーム、
ロゴマーク決定
- 2007 11月：阪和自動車道 全線開通
- 2008 2月：新名神高速道路
(亀山JCT～草津田上IC) 開通
- 11月：ハイウェイ交通情報提供
『i Highway』サービス開始
- 2009 3月：休日高速道路料金
上限1,000円、平日3割引等
利便増進割引の試行
- 2010 3月：第二京阪道路
全線開通
- 6月：高速道路無料化
社会実験の開始(2011.6まで)

2011～2015

- 2011 1月：海外点検業務等への参入を開始
3月：東日本大震災発生
- 2012 11月：大分自動車道 山田SA下り線が
「エコエリア山田」としてリニューアルオープン
太陽熱・排熱活用など環境新技術を導入
- 12月：中央道笹子トンネル
天井板落下事故発生
- 2013 4月：京都縦貫自動車道
(沓掛IC～大山崎JCT・IC間) 開通
- 2014 1月：高速道路
リニューアル
プロジェクト
発表
- 7月：舞鶴若狭自動車道 全線開通
- 12月：東九州自動車道今川PA(上下) オープン
- 2015 3月：徳島自動車道
(鳴門JCT～徳島IC間) 開通
高松自動車道と徳島自動車道が
ダブルネットワーク化
- 6月：茨木技術研修センター「I-TR(アイトレ)」開設

2016～2020

- 2016 4月：熊本地震発生
- 4月：新名神高速道路有馬川橋
橋桁落下事故 発生
- 東九州自動車道(椎田南IC～豊前IC) 開通
北九州市から宮崎市が直結
- 2017 6月：近畿圏の新たな高速道路料金の開始
(対距離制への移行)
- 2018 3月：新名神高速道路
(高槻JCT・IC～神戸JCT) が全て開通
宝塚北SAオープン
- 11月：2025年大阪・関西万博
誘致決定
- 2019 5月：元号が「令和」に改元

民営化15年の成果

①有利子債務を確実に返済

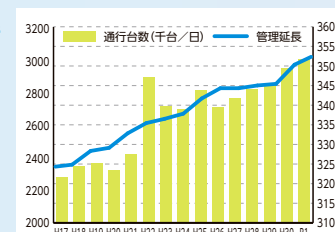
高速道路機構の債務残高が、民営化15年で約10兆円減額し、確実な返済を進めました。

高速道路機構の債務残高*		
2005.10 (民営化) 時点	2019.3 時点	減額
38.2兆円	27.5兆円	▲10.7兆円

※全国路線網(NEXCO3会社)、首都高速道路、阪神高速道路、本州四国連絡高速道路、及び一の路線の合算値
2019年3月時点

②高速道路の着実な整備

・民営化15年で273kmの高速道路を開通
・利用台数が年間で約2.6億台増加
高速道路の着実な整備と利用促進が図られました。



③多様なサービスの提供

・地域と連携した周遊割引の実施
・SA・PAでの快適なトイレ空間の創出
施設の充実によるサービスの向上とともに地域との共生を推進しました。

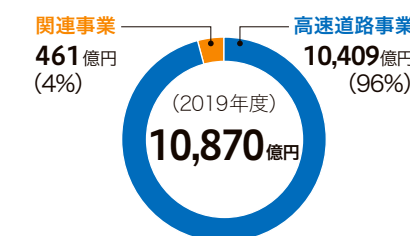


宝塚北SAのトイレ

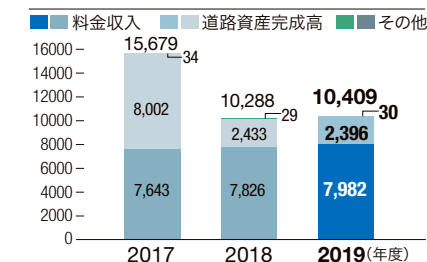
NEXCO西日本グループの事業

NEXCO西日本グループでは、「高速道路の建設」と「安全かつ効率的な運営管理」を行う高速道路事業、お客さま満足度の向上をめざすSA・PAの運営管理等を行う関連事業を実施しています。

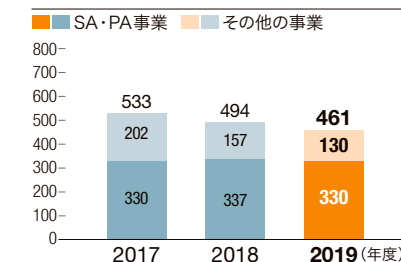
営業収益の事業別内訳※



高速道路事業の営業収益 (単位: 億円)※



関連事業の営業収益 (単位: 億円)※



※ 億円未満は切り捨てて表示しています

建設事業

地域の発展と、地域の暮らしや利便性向上に貢献するため、より安全で使いやすい高速道路ネットワークの整備や、6車線化及び4車線化事業などの既存ネットワークの機能向上を推進しています。



建設中の新名神高速道路 宇治田原第二高架橋



東九州自動車道 国富スマートIC 開通式

保全サービス事業

お客さまにいつでも安全・快適に高速道路をご利用いただけるよう、路面や構造物の点検、清掃、補修などの維持管理をはじめ、24時間体制で道路巡回、交通情報の提供、料金収受などを行っています。

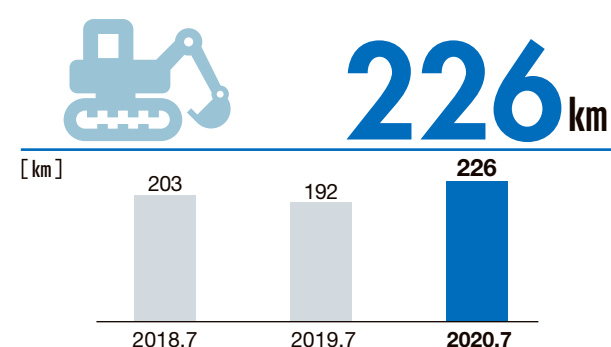


構造物の点検

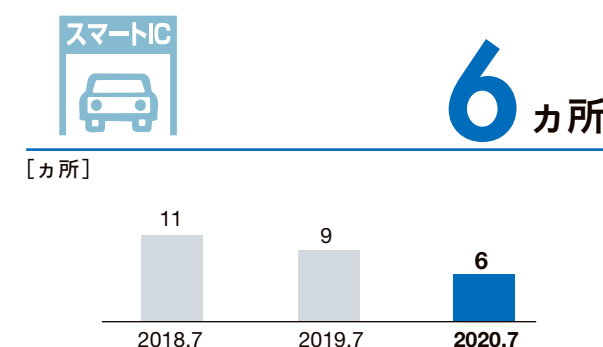


道路巡回

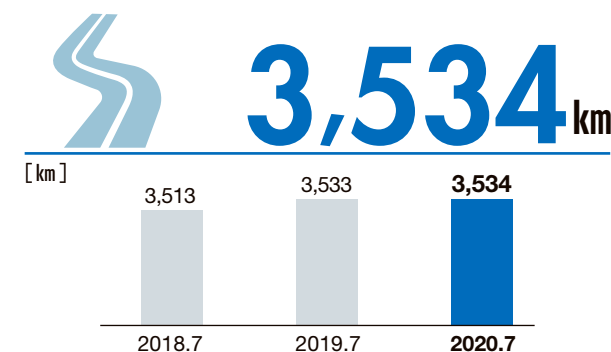
建設延長 (6車線化及び4車線化 新設 71km)



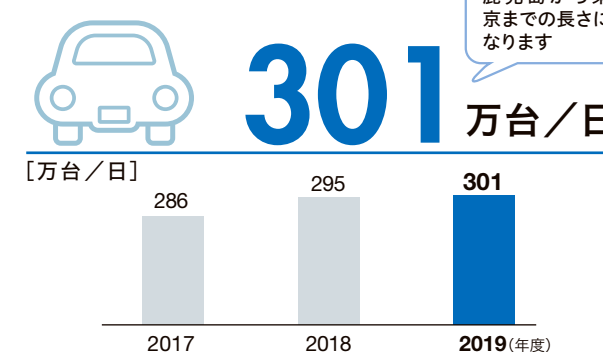
スマートIC事業中箇所



営業延長



高速道路利用台数



1日の利用台数を並べると概ね鹿児島から東京までの長さになります

SA・PA事業

SA・PAにおいて、くつろぎ、楽しさ、賑わいを実感していただける空間の創出のほか、地域と連携した取り組みを実施するなど、お客さまと地域の皆さまに新たなサービスを提供しています。

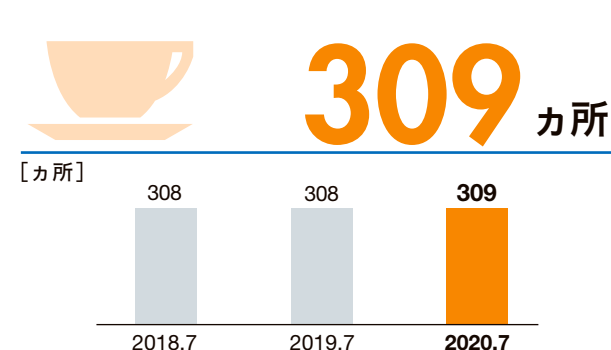


新名神高速道路 宝塚北SA 外観

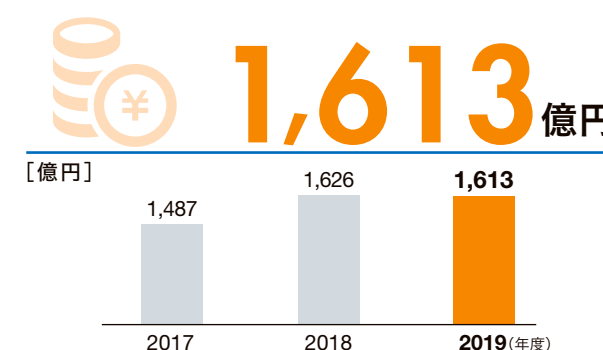


SAでのイベント開催状況

SA・PAの数



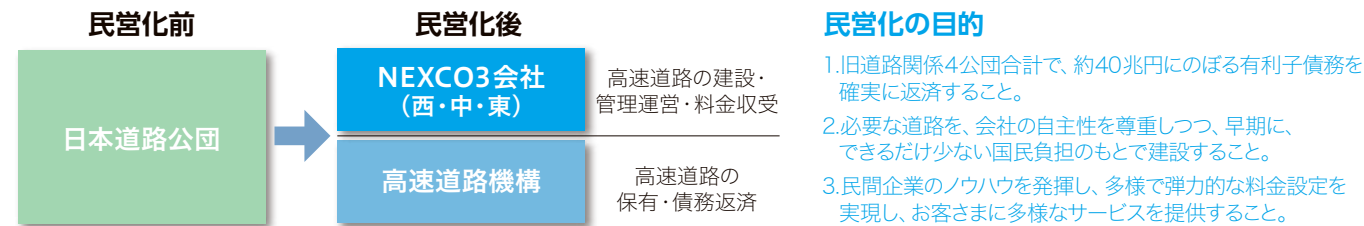
SA・PA売上高



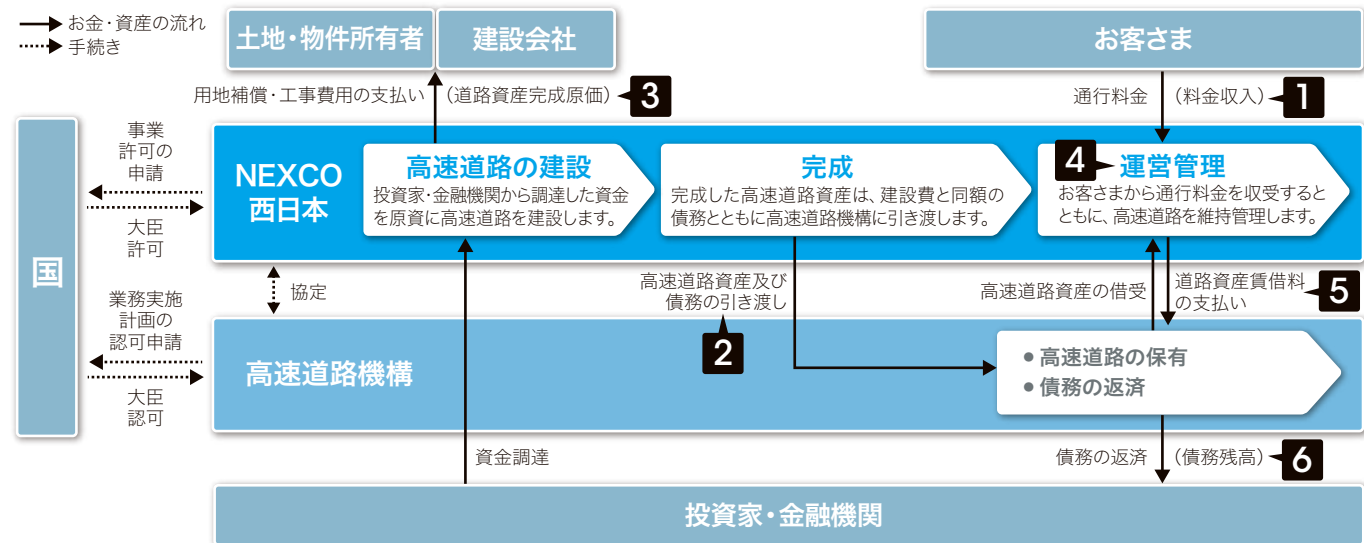
NEXCO西日本の成り立ちと高速道路事業のスキーム

NEXCO西日本の成り立ち

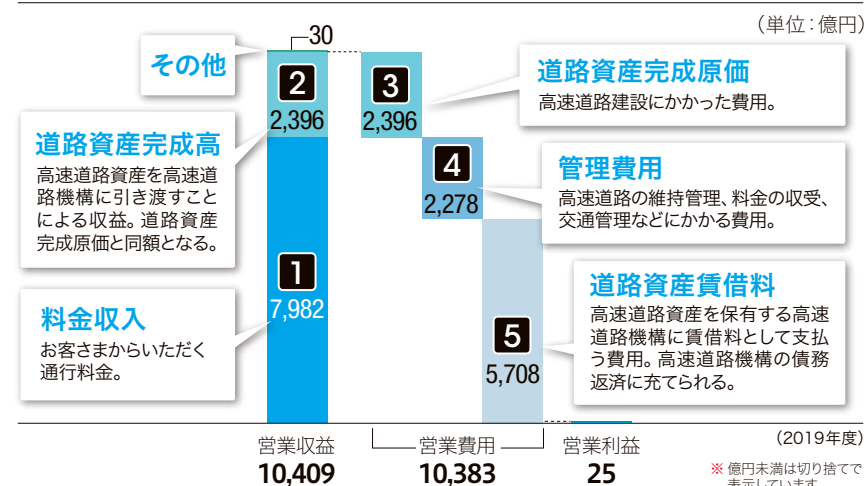
当社は、日本道路公団の分割・民営化により2005年10月1日に設立されました。高速道路資産とその債務は高速道路機構が保有し、高速道路会社各社は、高速道路機構から資産を借り受け、運営管理を担っています。



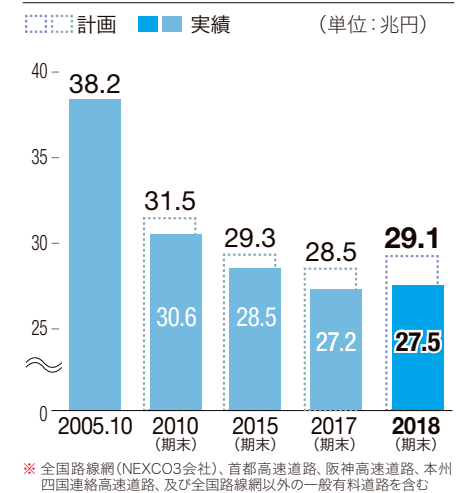
高速道路事業のスキーム



高速道路事業の損益（12345）



高速道路機構の債務残高（6）



中期経営計画 2020

高速道路は我が国の大動脈として生活・経済活動に欠かせない重要インフラであり、NEXCO西日本グループは24時間365日、この高速道路の機能・サービスを間断なく提供する使命を担っています。

当社グループはこの使命を全うするため、当社グループ理念（1ページ参照）のもと、2016年度からの5カ年の中期経営計画2020を推進しています。

策定の背景

経営環境の変化



基本的な考え方

安全・安心

- 社員一人ひとりがリスク感度を高め、高速道路における「安全・安心」という基本のサービスを最優先に、高い品質でお客さまにお届けします。
- 重要な社会基盤である高速道路ネットワークを強化し、健全な状態で次世代へと継承します。
- 24時間365日高速道路の機能を保持するとともに、異常気象や災害・事故に対しても迅速に対応し、間断ない交通の確保に向けた防災対応力を高めます。

信 頼

- NEXCO西日本グループは、社員一人ひとりがコンプライアンスを重視し、社会から信頼され必要とされる組織となるように努めます。
- 地域の魅力や特性と高速道路ネットワーク機能との相乗効果により高速道路の価値最大化をめざすとともに、地域から期待される事業を展開します。

成 長

- 高速道路ネットワークの価値を最大化する取り組みを継続し、地域とともに100年先の未来まで持続的に成長していきます。
- 高速道路を取り巻く環境の変化に適切に対応し、グループ一体となって進化し続けます。

主な重点施策

① 100年後も安心して利用できる高速道路



高速道路リニューアルプロジェクトに着手

② 高速道路ネットワークの機能強化



新名神高速道路の建設

③ 工事の安全対策の徹底



工事中の重大事故の撲滅に向け、リスクマネジメントを推進

コーポレート・ガバナンス

NEXCO西日本では、当社グループの事業執行における迅速な意思決定、効率的な経営をめざし、ステークホルダーの方々から支持と信頼をいただくために、コーポレート・ガバナンスの充実を図ることが最重要課題のひとつであると認識しています。

そのため、経営の意思決定、業務執行及び監督、さらにはグループガバナンス、情報開示などについて適切な体制を整備し、経営の健全性、効率性及び透明性の確保に努めています。

会社の体制

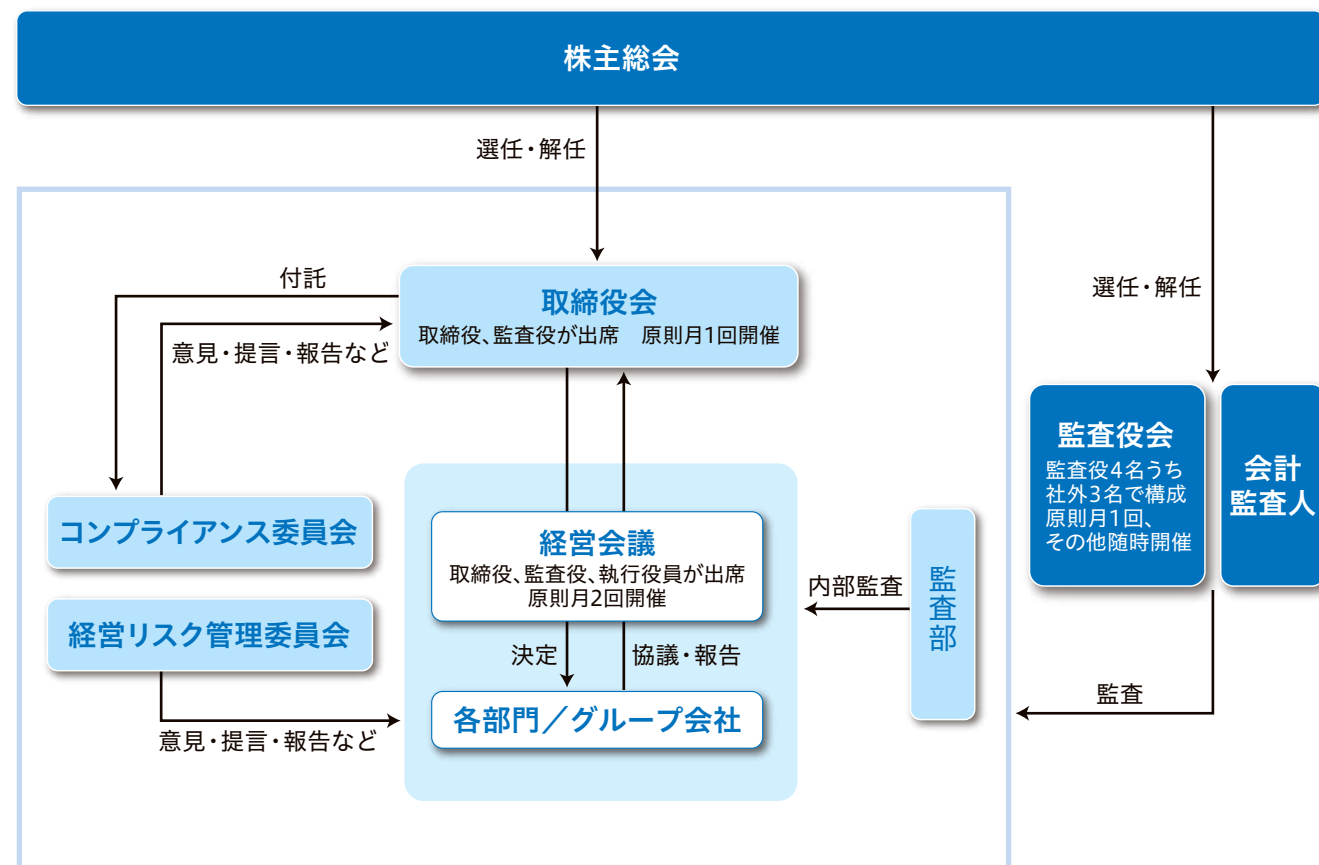
内部統制システムを整備し、経営の健全性・透明性の確保に努めています

当社では、重要な業務執行に関する事項を決議するための取締役会に加えて、経営に関する重要な事項について協議し情報共有等を行うための経営会議を開催しています。

また、さらなる経営の監督・監査の強化を目的として、社外取締役・社外監査役を選任し、社外における豊富な知識・経験を当社の経営・監査業務に活かすこ

とで、経営の健全性・透明性の確保に努めています。

さらに、コーポレート・ガバナンスを充実させ、業務を適正かつ効率的に遂行するために、コンプライアンス委員会や経営リスク管理委員会などの内部統制システムを整備し、運用状況を定期的に確認することにより、経営の健全性・透明性の確保に努めています。



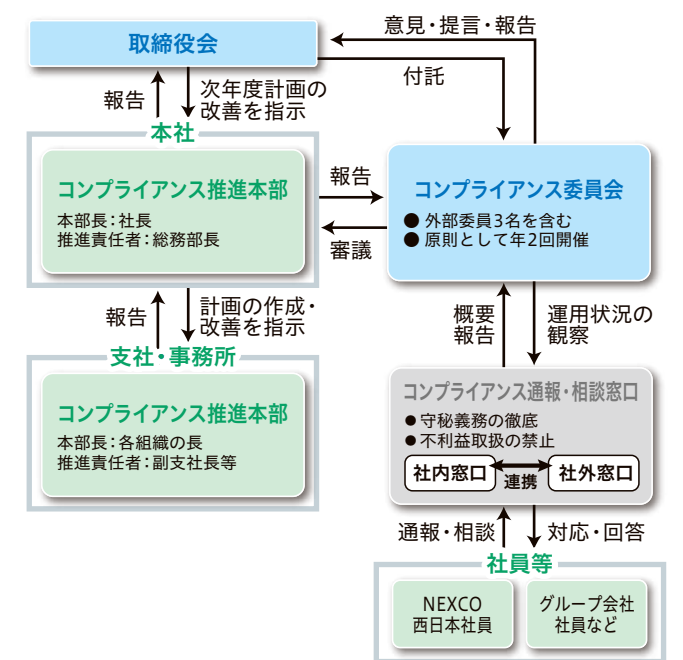
コンプライアンス

グループ全体でコンプライアンス向上に取り組んでいます

当社では、コンプライアンスの徹底と、より高度な倫理観を確立するため、各組織にコンプライアンス推進本部を設置し、コンプライアンス推進計画の作成、実施及び実施状況の検証を行っています。

また、自律的な社内秩序の維持、不祥事の抑制・抑止を図るため、コンプライアンス通報・相談窓口を設置し、社員等からのコンプライアンスに関する通報や相談に対応しています。

さらに、公正かつ透明性の高い企業活動の実践を図るため、客観性かつ多様な知見を有する外部委員を含むコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス向上に向けた意見や提言をいただいています。



リスクマネジメント

継続的なリスクマネジメント活動を推進しています

当社グループの事業活動に伴うリスクについては、現場を担う事務所及び支社において、グループ会社と連携しながらリスクの洗い出しを行う等自律的に管理していくとともに、当社グループ全体のリスクを統括的に管理する「経営リスク管理委員会」を組織し、リスクの評価・見直しや、予防措置ならびにリスク発現時の対応状況の検証を行うなど、継続的なリスクマネジメント活動を推進しています。

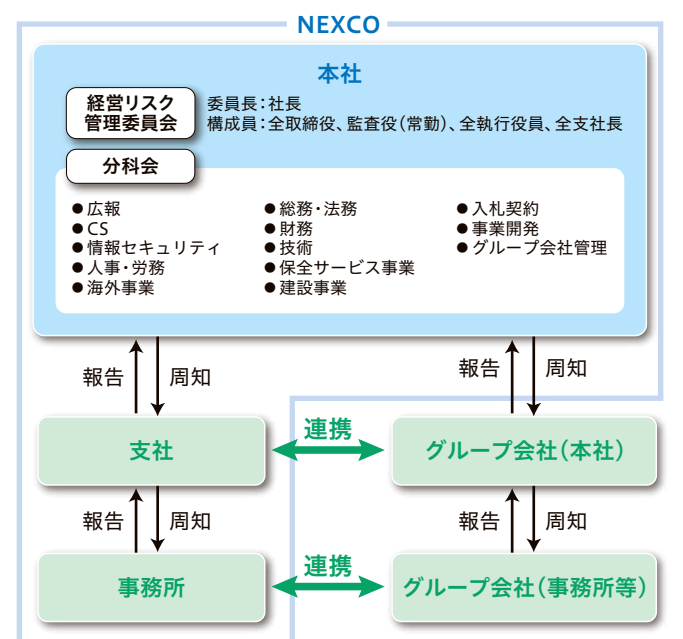
特に工事の安全管理に関するリスクについては、以下の3点を柱とした取り組みを実施し、工事の安全性向上をめざしています。

- 実践的な研修などを通して、社員のリスクに関する予見力等を向上
- 受発注者合同でリスクに対して書類及び現場を確認し、予防・是正措置の必要性などを協議
- 現場のパトロールにおいてリスクが懸念される箇所を重点的に点検

人権の尊重

人権問題啓発推進会議を設置し毎年活動を見直しています

当社グループでは、社会・社員の信頼に応えるべく、「人権問題啓発推進の基本方針」を策定して、当社グループが一丸となって人権尊重・人権啓発に取り組む



情報セキュリティ対策に取り組んでいます

情報漏洩を「しない」「させない」企業風土と安全なIT環境を確立し、情報セキュリティに対する社員の意識向上を高めるため、ハード・ソフト面での対策を講じ、不正アクセス対策、ウイルス対策並びにメールの誤送信対策を徹底しています。

ことを宣言しています。また、本社及び支社に「人権問題啓発推進会議」を設置して、当年度の人権啓発活動を統括するとともに、次年度の活動計画を審議しています。

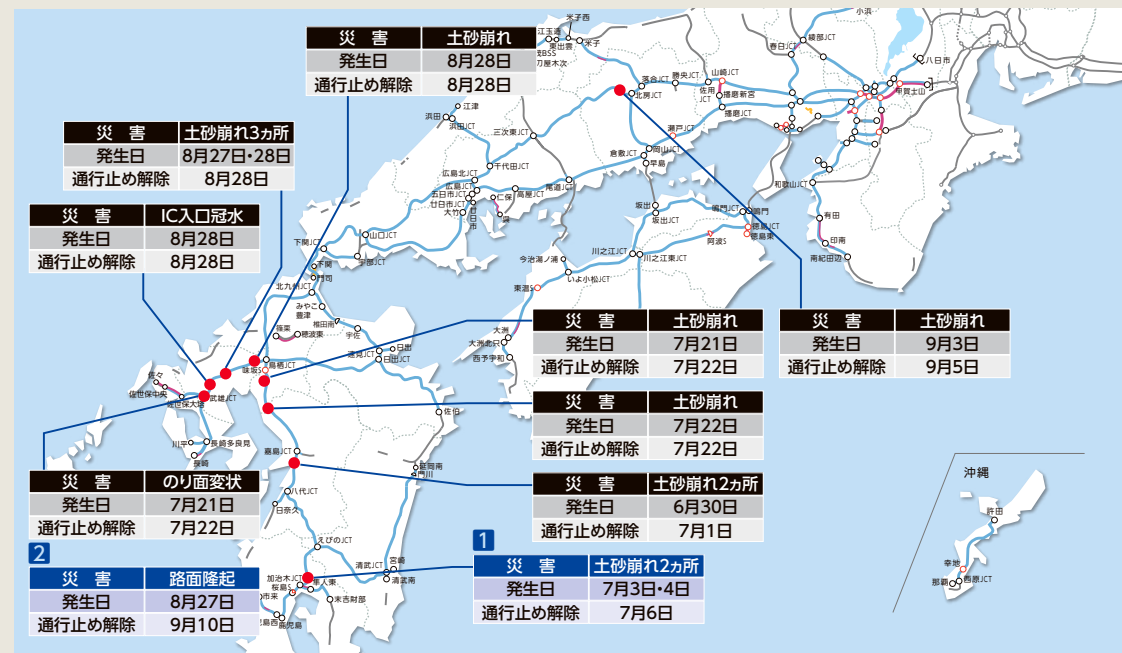
2019年度は社員研修の中で人権に関する講義を行ったほか、社内報、メールマガジンの発行を通じて、人権啓発活動に取り組みました。



のり面変状による路面の隆起／長崎自動車道 武雄JCT付近

2019年災害対応の記録

2019年は6月下旬から7月下旬にかけて九州地方を中心に活発な梅雨前線の影響による大雨により高速道路で災害が発生しました。また、8月下旬に秋雨前線の影響により九州地方で大雨となり、9月上旬には中国地方でゲリラ豪雨により高速道路で災害が発生しました。

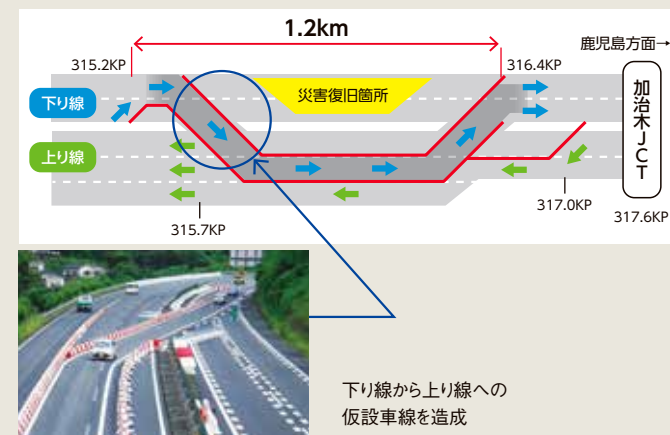


1九州自動車道 溝辺鹿兒島空港IC～加治木JCTにおけるのり面土砂崩れ

2019年6月28日から7月6日にかけて鹿児島県域では総雨量825mmが観測され、県内各地の雨量観測所で観測史上1位の雨量が記録されました。この大雨により高速道路本線へ大量の土砂が流入する土砂崩れが発生しました。一刻も早く通行止めを解除するため、被害の少なかった上り線を活用した対面通行により、発災後約60時間で通行止めを解除しました。



下り線被災状況(区域外からの土砂流入)



2長崎自動車道 武雄JCT付近における路面の隆起

長崎自動車道 武雄JCTでは、2019年7月の大雨で生じたのり面の変状を受け本復旧工事を進めていましたが、2019年8月26日から28日の大雨により、山肌の樹木が区切れて見える、縦170m、横60mの範囲(左下写真参照)で地滑りが発生し、その影響で高速道路の路面が1m程度隆起し横方向へ約2m移動する被害が発生しました。

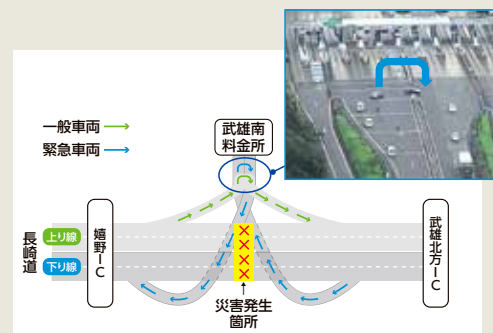
また、この大雨により周辺地域では広範囲に及ぶ浸水被害が発生したため、災害対応車両や緊急物資輸送車両が速やかに救助・救援活動を開始できるよう緊急車両の通行確保を最優先に進め、発災の翌日である28日21時30分に通行止めの一部を解除し交通機能を確保しました。



山肌の樹木の区切れ 地すべり範囲



路面の被害状況



Voice

迅速対応で風評被害も最小限に

2019年8月豪雨により、佐賀県の広い範囲が浸水や土砂崩れなどの被害に見舞われ、嬉野市でも周辺道路の通行止めや緊急車両の集中混雑で市民生活に影響が及ぶおそれがありました。とりわけ長崎自動車道武雄JCT付近ののり面災害はニュースでも繰り返し放映され、温泉街自体が被害を受けていないにも拘わらず宿泊キャンセルが相次ぐ、風評被害にも悩まされました。しかし、翌日には緊急交通路が確保され、2週間で対面通行規制による通行止め解除となり、観光業への悪影響も最小限に食い止めることができました。

また、古賀SA(下り線)での嬉野・武雄の観光情報発信にお声かけいただき、迂回代替路の無料措置など、ソフト・ハード両面でNEXCO西日本様にはお世話になりました。今後とも緊密な連携の下、災害時の迅速な復旧と道路利用者の利便性向上に努めて参る所存です。



佐賀県嬉野市長
村上 大祐 様



床版取替工事の状況／中国自動車道 東ノ迫池橋



NEXCO 西日本が管理する高速道路の約4割が開通から30年を超え、老朽化が進んでいます。

そのため当社では、道路ネットワーク機能を長期にわたって健全に保つため、橋梁やトンネルなどの構造物をリニューアルする、「高速道路リニューアルプロジェクト」を進めています。

中国自動車道リニューアルプロジェクト（吹田 JCT ～神戸 JCT）

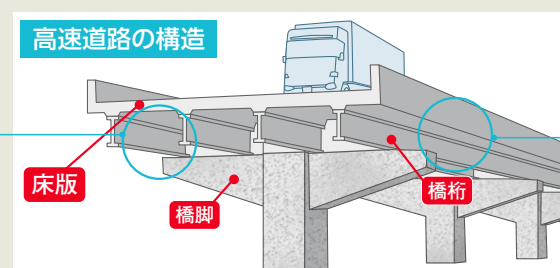
関西都市圏では、2020年度より中国自動車道吹田JCT～神戸JCT間において、大規模なリニューアル工事を予定しています。

1970年の大阪万博開催にあわせて開通した中国自動車道中国吹田IC～中国豊中IC間は50年が経過し、橋梁等の構造物の損傷が進行しています。

このため、抜本的な対策として橋梁の桁や床版を取り替えるなどのリニューアル工事を行うこととしました。



橋梁下面の損傷状況



鋼部材の断面欠損

2020年6月に吹田JCT～中国池田ICでリニューアル工事を実施

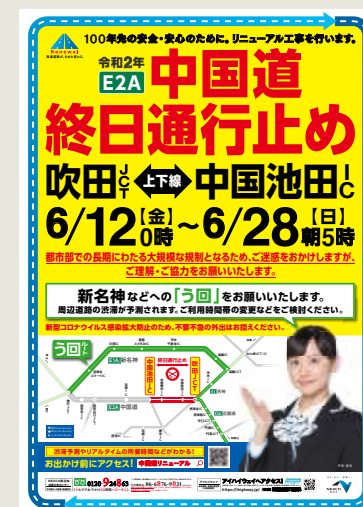
2020年6月に約2週間の終日通行止めによる工事を実施しました。

工事期間中は、周辺道路の渋滞緩和のため、新名神高速道路などへのう回をお願いさせていただき、ご協力いただけたお客さまにSA・PAの割引クーポンの提供や通行料金の引き下げなどを実施しました。また、この工事における一般道を含めた交通への影響等について、交通を専門とする有識者が参画する委員会等で検証することとしています。

これらの検証結果をもとに、お客さまや地域住民の皆さまへの影響を最小限に抑えるため、今後のリニューアル工事の実施及び通行規制計画に反映していきます。



う回路の案内



通行止めお知らせポスター

Voice

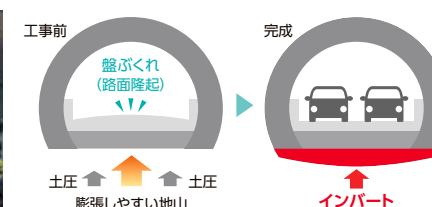
高知自動車道 大豊IC～南国IC間のトンネル更新事業が完了

明神トンネル（下り線）では盤ぶくれ対策（インバートと呼ばれるコンクリートを設置し、トンネルをリング状の強い構造に改良）を行いました。

通行止めを実施せず工事を行う場合は、上下線のどちらかの車線を活用した対面通行により実施しますが、上下線が離れており、かつ、トンネル連続区間であったため、車線を切り替えながら1車線ずつ工事を行う工法を採用しました。これにより、車両が通行してい

るすぐ横で、長期間の工事を行うため、背の高い特殊な仮設コンクリート壁を設置したり、ベルトコンベヤーによる土運搬を行うなど、お客さまの安全や工期短縮の工夫により無事に工事を完了することができました。

今後も高速道路のリニューアルプロジェクトは続きます。お客さまへのサービスの低下を可能な限り抑え、安全かつ長期にわたって利用できる強い高速道路の実現に挑戦していきます。

高知高速道路事務所
改築第一課 富永 裕紀

TOPICS

法定点検を完了し 計画的な修繕に取り組んでいます

国により策定されたインフラ長寿命化基本計画等にもとづき、当社では2018年度に対象施設の点検をすべて完了しました。

この点検結果にもとづき計画的に順次修繕工事を実施しています。

また、法定点検は5年に1回のサイクルで実施するため、2019年度から2巡目の点検を開始し、長期的な高速道路の「安全・安心」の確保に取り組んでいます。

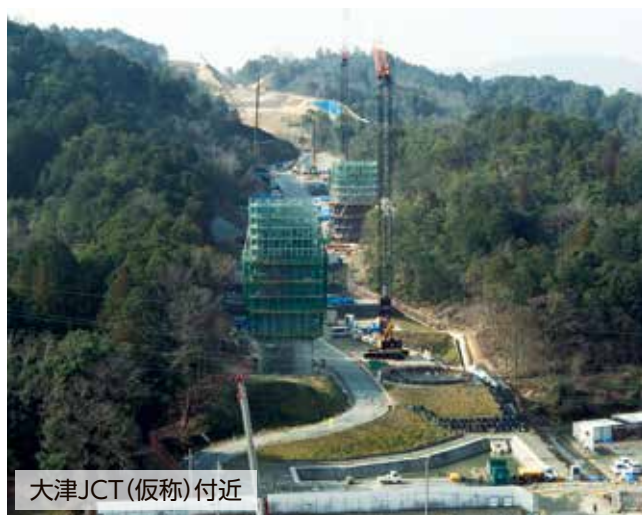
点検及び修繕状況

11,922施設※1
点検完了(2019年3月時点)

※1 1巡目の法定点検における点検施設数

442施設※2
修繕完了(2020年3月時点)

※2 1巡目の法定点検結果のうち、健全性Ⅲと診断した1,715施設に対する修繕完了施設数



大津JCT(仮称)付近



八幡京田辺JCT・IC付近



城陽市



淀川河川敷内

新名神高速道路の工事現場

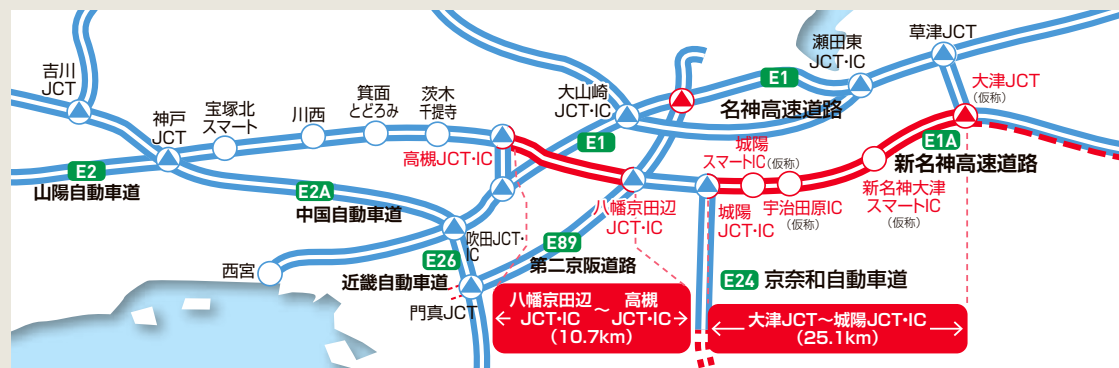
高速道路ネットワークの着実な整備

当社では、地域の発展と、暮らしや利便性の向上に貢献するため、より安全で使いやすい高速道路ネットワークを構築することを目的とし、新名神高速道路などを含む6道路71kmの区間の新設事業及び阪和自動車道など13道路155kmの区間の6車線化及び4車線化事業を行っています。

以下に代表的な3つの事業区間について紹介します。

1 新名神高速道路（大津～城陽、八幡京田辺～高槻）

1963年の栗東IC～尼崎ICの開通以来、日本の産業と社会を支えてきた名神高速道路の多重化をめざし、「未来につなぐ信頼の道」新名神高速道路の整備を進めています。現在大津JCT（仮称）～城陽JCT・IC及び八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・IC間は、用地取得及び工事に着手するなど地元の皆さまのご理解をいただきながら、着実に事業を進めています。



2 播磨自動車道（播磨新宮～山崎）

播磨新宮IC～山崎JCT間は、鳥取県と兵庫県、岡山県の南北の連携が強化されることに加え、中国自動車道と山陽自動車道の結びつきを強めることを目的とした延長約12kmの事業です。

現在、全線にわたり工事に着手しており、引き続き、地元の皆さまや関係行政との協議を進めながら、さらに工事進捗を図っていきます。



播磨自動車道 播磨新宮IC付近

3 四国横断自動車道（徳島東～徳島）

徳島東IC～徳島JCT間は、高松自動車道・徳島自動車道及び新直轄方式で整備されている阿南～徳島東IC間を結ぶ延長約4kmの事業です。

この整備により、四国東部における広域ネットワークが構築されることで、地域間交流の強化、沿線道路の渋滞緩和、災害時の代替機能の強化などが期待されています。



四国横断自動車道 徳島東IC～徳島JCT(吉野川)

TOPICS

新名神高速道路の整備効果

①大動脈のダブルネットワーク化



高速走行による所要時間の短縮、時間信頼性の向上、事故・災害時における代替路の確保といった効果があります。

②並行路線の渋滞緩和

名神高速道路(上り線)京都東IC付近 京滋バイパス(上り線)宇治TN付近

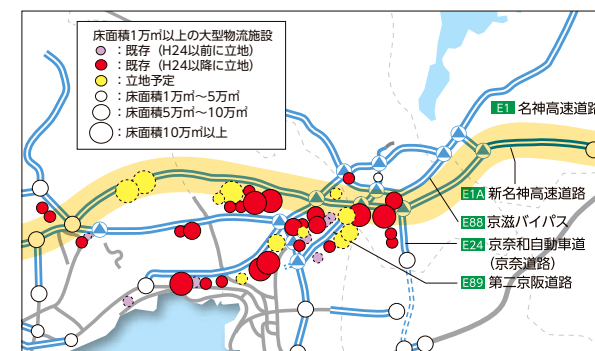


名神高速道路・京滋バイパスの渋滞緩和が期待されます。

新名神高速道路 高槻JCT・IC～神戸JCTの開通により、並行する中国自動車道の渋滞回数が
約75%減少

③物流の生産性向上

新名神高速道路の周辺では、大規模物流施設の立地が増加し、新たな物の流れが生まれています。



物流拠点の立地状況

④観光の活性化への寄与

新名神高速道路の整備により、観光地へのアクセス性が向上し、観光産業の活性化、地域の活性化が期待できます。



(公社)びわこビジターズビューロー



4車線化完了前の状況

4車線化完了後の状況

長崎自動車道 長崎芒塚IC～長崎多良見IC

さらなるネットワーク強化の取り組み

当社では、暫定2車線区間における交通渋滞の解消や安全性のさらなる向上を目的とし、渋滞や事故が多く発生している区間から順次、4車線化を進めています。2019年度は、長崎自動車道長崎芒塚IC～長崎多良見ICの8.3kmにおいて4車線化の工事を完了し、既存ネットワークの強化に取り組んでいます。

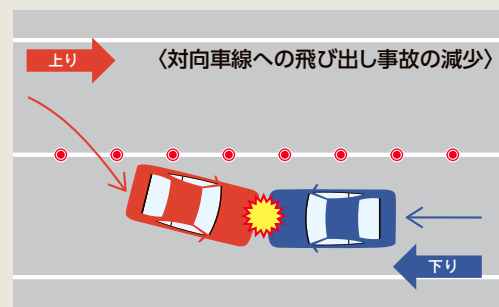
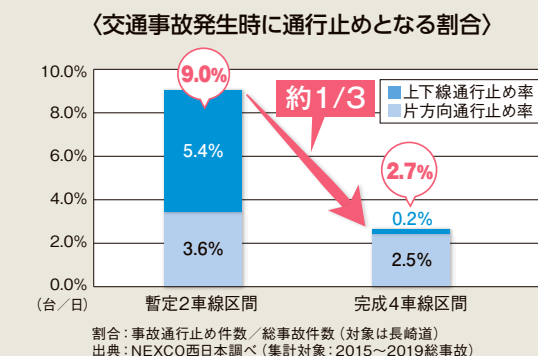
■長崎自動車道（長崎芒塚IC～長崎多良見IC）4車線化工事の完了

2004年に暫定2車線区間で開通した長崎自動車道長崎芒塚IC～長崎多良見ICでは、交通量が約1.5倍に増加していくなかで、様々な課題が顕在化したため、2012年より4車線化工事に着手しました。そして、2019年6月28日、すべての工事が完了し、4車線での走行が可能となり効果が現れています。



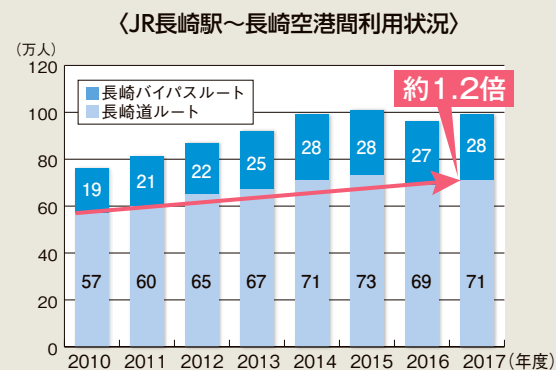
①安全性のさらなる向上

中央分離帯が設置され、対向車線への飛び出し事故の防止などにより、交通事故の減少とともに、死亡事故などの重大事故の減少により安全性が向上しています。



②定時性のさらなる向上

長崎空港から長崎市内へ向かう高速バスは、長崎道ルートの利用が多く年々利用者が増加し、2010年度から約14万人増加（1.2倍）しています。このように長崎空港と長崎市内の移動で重要な役割を担っている高速バスは、飛行機の出発・到着時間に合わせて運行されているため、4車線化による定時性のさらなる向上が期待されます。



Voice

長崎自動車道の完全4車線化に長崎県営バスは大いに期待しています。



長崎県交通局（長崎県営バス）

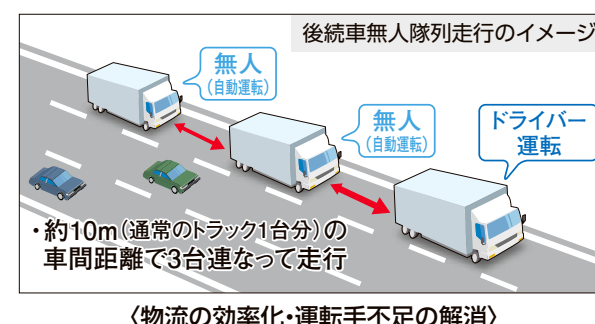
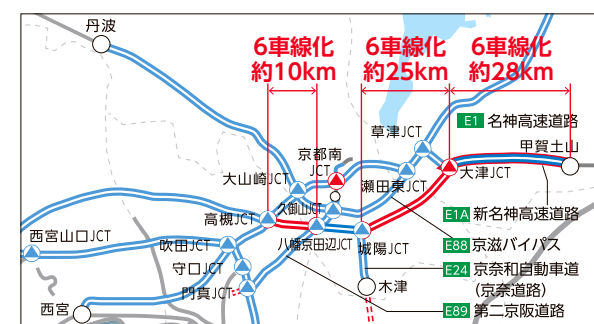
長崎自動車道の完全4車線化は、観光立県の長崎県にとって、車の流れがスムーズになり一層の観光客の来県が望めます。特に長崎県営バスは、九州各県とを結ぶ高速バス、県内拠点都市を結ぶ都市間輸送バス、空港リムジンバス、貸切バスを運行している中で、利用頻度も多く、定時性の確保にもつながり大いに期待しているところです。

TOPICS

後続車無人隊列走行の実現を見据えた整備 ～新名神高速道路の6車線化の推進～

物流業界では、近年、トラックドライバー不足が深刻化するなかでの労働生産性の向上や働き方改革の実現など短時間で長距離の輸送を可能とし、輸送効率の向上に寄与する高速道路の重要性が高まっています。

現在、後続車無人隊列走行システム（東京～大阪間）の商業化が進められており、実現に向けた安全で円滑な走行区間の確保などの観点から新名神高速道路の6車線化等を進めています。



〈物流の効率化・運転手不足の解消〉



高速道路のお客さまと地域の皆さまに愛されるSA・PAをめざして

当社グループでは、快適な休息をご提供できるよう地域の特性を活かした店舗づくりや品揃え、清潔で快適なトイレや、駐車場の整備など、高速道路のお客さまと地域の皆さまにくつろぎ、楽しさ、にぎわいを実感していただける空間を提供します。

魅力ある店舗づくりや、新たなサービスの導入

心和む空間や地域の魅力を発信する休憩施設として、お客さまや地域の皆さまに親しんでいただける店舗をめざしています。

また、セミセルフレジの設置によるレジ待ち時間の短縮等、お客さまの利便性向上に取り組んでいます。



九州自動車道 広川SA(上り線)
「昭和食堂(レストラン)」として、昭和の名車展示や昔懐かしいメニューを提供



大分自動車道 山田SA(下り線)
ショッピングコーナーほかにセミセルフレジを設置

電子マネー（交通系・nanaco等）導入によるキャッシュレス化

お客さまにお食事やお買い物を快適に済ませていただけるよう、SA・PAでは電子マネーを導入するなどキャッシュレス化を推進しています。2020年4月以降は、さらに取り扱いの電子マネーを拡充しました。



イオンNEXCO西日本カード好評発行中

電子マネー導入一覧

POSレジ	券売機
※「楽天Edy」は、楽天グループのプリペイド型電子マネーサービスです。	

※点線内の電子マネーは2020年7月下旬に導入予定

SA・PAで子育て応援

赤ちゃん連れのお客さまに安心して高速道路をご利用いただけるよう、2021年までにすべてのSAで24時間利用可能なベビーコーナーを設置します。また、2019年9月からは哺乳瓶へ移し替えるだけで飲める液体ミルクの販売を開始しました。

ベビーコーナー 88カ所のSA・PAに設置済 ※2020年3月末時点



オムツ替台



授乳室



液体ミルクの販売

85カ所のSA・PAで販売中
※2020年3月末時点

SA店舗の建替におけるお客さまサービス向上へのチャレンジ

店舗の建替工事中であっても、店舗営業によるサービスの提供を最大限継続できるよう、曳家と呼ばれる建築工法をSA店舗の建替で初めて採用しました。

これにより、通常の建替工事であれば店舗の営業休止が約8ヵ月必要なところ、12日に抑えることに成功しました。引き続き店舗の建替の際には、曳家による建替も含めお客さまへの影響を小さくする取り組みによりサービスの向上をめざします。

曳家による店舗建替の様子



①新店舗建築完了



②旧店舗解体完了



③新店舗移動(曳家)完了



↑4車線化完了前 高松自動車道
4車線化完了後↑ 板野IC～引田IC



駐車場混雑案内
九州自動車道 基山PA付近



逆走対策 九州自動車道 鹿児島本線料金所



冬季の除雪等作業

高速道路ネットワークの安全性、信頼性や使いやすさの向上による機能強化を図るため、国において「高速道路における安全・安心基本計画」が策定されました。当社としても、国との適切なパートナーシップのもと、各施策について創意工夫をもって着実に実施するため、「高速道路における安全・安心実施計画」を策定し、事業の推進を図っています。

暫定2車線区間の解消

お客様の安全・安心の確保、大規模災害時の早期復旧の支援等の観点から、国の基本計画で優先整備区間に選定された約380kmの暫定2車線区間について、概ね10年から15年程度での4車線化をめざしています。このうち約35kmについて、2020年3月に国土交通大臣の事業許可を受けて4車線化事業に着手しました。

■暫定2車線区間の課題

4車線区間と比較すると規制速度が低く低速車両の追越ができないため、後続車両を含め全体的に速度が低下



阪和自動車道 印南IC～みなべIC

冬季の積雪等により立ち往生車両が生じた場合、立ち往生車両の追越ができないため、通行止め等が発生



米子自動車道 蒜山IC～江府IC

小規模な災害でも通行止めが発生。応急や本復旧工事においても、工事中の代替路がないため、長期の通行止めが必要



松山自動車道 内子五十崎IC～大洲IC

世界一安全な高速道路の実現

2029年までに逆走による重大事故ゼロをめざすため、本線との合流部や出入り口部において、高輝度矢印板や大型矢印路面標示などの対策を実施しました。

さらに、公募した技術の有効性を確認のうえ、物理的・視覚的対策を推進し、2020年度の概成に向け取り組んでいます。

今後の取り組み

●SA・PAの路面に矢印標示等を推進



長崎自動車道 小城PA



●公募した逆走対策技術の展開 (71/143カ所対策実施済 2020年3月時点)

錯視効果を応用した路面標示



九州自動車道 松橋IC

ラバーポールウィングサイン



九州自動車道 加治木JCT

リバーシブル注意喚起



大分自動車道 天瀬高塚IC～日田IC
(順走行車両からは視認不可)

お客さまニーズを踏まえた使いやすさの向上

交通量の多い路線を中心に、平日夜間において約70%以上のSA・PAで大型車用駐車マスの不足が生じていることから、SA・PAの利用実態を踏まえて計画的に駐車マスの拡充を進めています。

- 2018年度は山陽自動車道 吉備SA(上り線)などの14カ所のSA・PAで大型マス221台拡充
- 2019年度は西名阪自動車道 香芝SA(下り線)などの24カ所のSA・PAで大型マス266台拡充
- さらに2022年度までに大型マス約360台の拡充を推進

改良前



改良後



山陽自動車道 瀬戸PA(下り線)の事例 大型マス：70台→93台(+23台)

これらの対策のほかに、特集1～4の取り組み、『自動運転等のイノベーションに対応した高速道路の進化』や『ネットワークの信頼性の飛躍的向上』についても「高速道路における安全・安心実施計画」に含まれており、高速道路ネットワークの安全性、信頼性や使いやすさの向上によるさらなる機能強化を進めていきます。



お客さま

交通安全の取り組み

交通安全の啓発

危険運転撲滅プロジェクトを始動しました

当社と(株)エフエム大阪、阪神高速道路(株)、本州四国連絡高速道路(株)の4社共同で、わき見をし「ながら」の運転、スマートフォンを操作し「ながら」の運転、運転手の身勝手なあおり運転(イライラし「ながら」の運転)など、高速道路での交通事故につながる危険運転を撲滅し、交通事故ゼロをめざすべく、「STOP! NAGARA DRIVING PROJECT」を始動し、持続的な交通安全啓発活動に取り組んでいます。



4社共同記者会見の様子

高速道路交通の管理

様々な機関・会社との連携ネットワークを構築しています

道路の安全と円滑な交通の確保を図るため、交通管理隊が高速道路を巡回しています。

交通管理隊が収集・把握した渋滞の状況や気象情報などは道路管制センターで集約し、情報板などを通してお客さまに発信しています。

また、路上障害物が発生した際は、緊急出動して排除にあたるほか、警察・消防と連携した事故対応、故障車に対する援助などを通じて、お客さまの快適なドライブをサポートしています。



落下物排除の状況

ヴォイス

Voice

隊員間の連携により、お客さまの安全と交通の確保に取り組んでいます

24時間、365日のパトロール業務を日勤・夜勤の交代制で実施しています。業務の内容は、パトロールカーに2人で乗車し、定期的に道路状況等を確認する道路巡回や落下物・事故・故障対応への緊急出動となります。

落下物排除作業では、1人が監視員として赤旗を用いてお客さまへの注意喚起と車両誘導を行い、もう1人の隊員が短時間で落下物の排除を行います。

危険と隣り合わせの作業ですが、日々の訓練に努め、お客さまが安全で安心してご利用いただける高速道路の実現に貢献していきたいと考えています。



西日本高速道路/パトロール関西(株) 神戸基地
係長 山口 晃博 隊員 伊藤 梨奈
※所属は、2020年5月時点のものです。

快適な高速道路空間の提供

交通渋滞の緩和

渋滞回避のための呼び掛けを行っています

ゴールデンウィーク・お盆・年末年始の交通混雑期に渋滞予測ガイドを製作し渋滞予測情報を公表するほか、「渋滞予測士」(渋滞予測を専門で行う社員)

がテレビ・ラジオ・新聞等に出演し、渋滞の傾向や渋滞回避のための分散利用について呼び掛けを行っています。



関西、中国、四国、九州地区の渋滞予測士4人



テレビ番組での予測情報の提供

道路交通情報の発信

情報の集約・発信基地としてお客さまの安全確保に努めています

道路管制センターでは、24時間365日体制で、交通事故や渋滞、異常気象など、安全運転に必要な情報を集約し、情報板やハイウェイ交通情報サイト「i-Highway」などを通じてお客さまに発信するとともに、交通管理隊への緊急出動命令や警察・消防への通報を行っています。

アイハイウェイ西日本

24時間全国高速道路の道路
交通情報を提供しています。



道路管制センター

TOPICS

新型コロナウイルス感染症対策

当社グループは、新型コロナウイルスの感染防止・感染拡大防止に努め、円滑な物流の確保をはじめ、安全・安心な高速道路サービスの提供に取り組んでいます。

1. 料金所での対策

- ①マスクの着用、手洗い、うがい、手指の消毒
- ②執務室内のごまめな消毒、換気の徹底
- ③公共交通機関を利用しない通勤の奨励
- ④スタッフの体調確認の徹底
- ⑤体調不良者が発生した場合の執務室内の消毒の実施
- ⑥感染者等が発生した場合の運用方法の事前検討



2. SA・PAでの対策

- ①マスクの着用、手洗い、うがい、手指の消毒 ②スタッフの体調確認の徹底 ③消毒液の設置
- ④トイレ、店舗内の椅子及びテーブルの定期的な除菌 ⑤店内の定期的な換気
- ⑥ソーシャルディスタンスの確保(トイレ、レジ待ち、飲食コーナー客席、シャワー待合室など)
- ⑦レジの飛沫防止シート等の設置



飛沫防止シート設置の様子

新型コロナウイルス対策に係るお客さまへのお願い

レジにお並びの際は、**一定の間隔(2m程度)**を空けていただきますようお願いいたします。



さらに、都道府県をまたぐ移動の自粛に関する取り組みとして、通行料金の休日割引を適用除外にするとともに、SA・PAでは、土曜・日曜を中心に、レストランやお土産コーナーの営業自粛を実施しました。また、お客さまにも手洗い、咳エチケット等感染防止策にご協力いただきました。



お客さま

魅力あふれる SA・PA づくり

魅力的な新メニューの開発 西日本が誇る魅力的なブランド肉を使用したメニューコンテストを開催



地域の食材や特色、食文化を活かしたオリジナルの「肉グルメ」をテーマに、SA・PAから全87品がエントリーし、お客さまがお食事された件数やプロの料理人・食の専門家による審査の結果、グランプリメニューが決定しました。これからも、地域の食材を活かし、お客さまにお喜びいただけるメニュー開発に取り組んでいきます。



本選大会の様子

《グランプリ》
中国自動車道 七塚原SA（上り線）
「ヒパゴンの玉手箱〜比婆牛赤身肉ステーキ瀬戸内レモンソースで〜」
※期間限定メニュー



地域と連携した商品開発 高校生と協力して特産品を活用した商品開発により地域の魅力発信

滋賀県立安曇川高等学校では、滋賀県高島市の魅力を知っていただきたいという思いで、例年地元特産品を活用した商品開発に取り組まれており、この度、オリジナルスイーツや地元名物料理を共同開発しました。2019年11月から名神高速道路 菩提寺PA（上り線）ほかで販売を開始し、多くのお客さまからご好評いただいています。



安曇川高校の生徒の皆さん



高島市特産の「アドベリー（ボイセンベリー）」を使用

「アドベリードラ」菩提寺PA（上り線）、黒丸PA（上り線）



鶏肉なのに「とんちゃん丼」菩提寺PA（上り線）

高速道路周辺地域の皆さまも楽しめる場所

高速道路に乗らなくても店舗にお越しいただけます

75カ所のSA・PAにウェルカムゲートを設置し、一般道からのアクセスが可能になっています。2019年度は、宮崎自動車道山之口SAに新たなウェルカムゲートがオープンしました。近隣にお住まいのお客さ

まもお買い物やお食事、イベントなどでお楽しみいただき、さらには仕事や勉強、ミーティングで利用が可能なコワーキングスペースを設置し、高速道路が潜在的に持つ可能性創造に挑戦しています。



山ノ口SA賑わいキャンペーンの様子



山ノ口SAコワーキングスペース
※2021年3月末までの予定



山ノ口SAウェルカムゲート

地域連携の一環として人気観光施設とのコラボレーション

旅行の気分を盛り上げていただくキャンペーンを実施

和歌山県白浜町にある「アドベンチャーワールド」などの和歌山方面の人気観光施設への便利な交通アクセスである阪和自動車道の各サービスエリア（岸和田SA・紀ノ川SA）で、「阪和道はパンダがいっぱい」キャンペーンを実施しています。

フードコートやレストランのテーブルやイスにパン



フードコートに設置したパンダシート



店舗内にパンダの足あとが登場



四国全県の動物園との連携企画
「ぐるっとドライブまるごと四国
動物園へ行こう!」も実施

旅に役立つ情報提供

海外のお客さまも安心です

訪日外国人の方がお困りの場合にも安心してご利用いただけるよう、2019年に多言語翻訳機を68カ所の休憩施設に導入しました。

ネット環境の充実

194カ所（2020年3月時点）のSA・PAでWi-Fiサービス「W-NEXCO Free Wi-Fi」を整備しています。2019年8月からフリーメールやSNSでの認証が可能となりました。



「W-NEXCO Free Wi-Fi」のサービスマーク



多言語翻訳機の利用の様子



社会

社会基盤である高速道路の整備と長期保全

高速道路の利便性向上

2019年度は5カ所のスマートICを新たに整備しました

高速道路の利便性を向上させるため、スマートIC※の整備を進めています。スマートICは、ETCを搭載した車両の利用に限定することで簡易な料金所の設置で済むとともに、市街地や観光地へのアクセスが向上し、高速道路がさらにご利用しやすくなります。

※ETCを搭載した車両限定で利用できるICで、対象車種が限定されている場合があります。



九州自動車道 人吉球磨スマート IC 開通式の様子



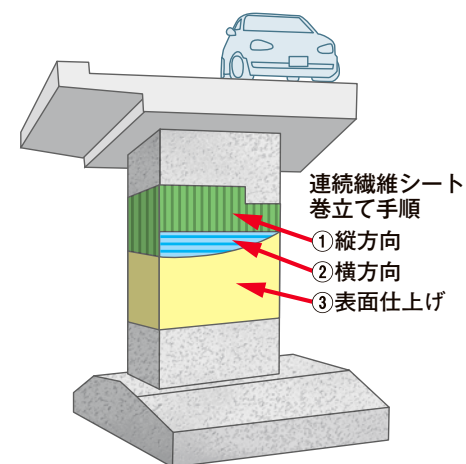
中国自動車道 湯田温泉スマート IC 完成航空写真

2019年度は湯田温泉（中国道）、中山（松山道）、人吉球磨（九州道）、国富（東九州道）、桜島【下り線出口】（九州道）で新たにスマートICが開通し、計36カ所となりました。現在、さらに6カ所の整備に着手しています。

地震に強い高速道路

耐震補強対策を加速させています

2016年4月に発生した熊本地震における橋梁の被災状況を踏まえ、お客さまに安心して高速道路をご利用いただけるよう、橋梁の耐震補強を進めています。



橋脚補強イメージ図



耐震補強前



耐震補強後



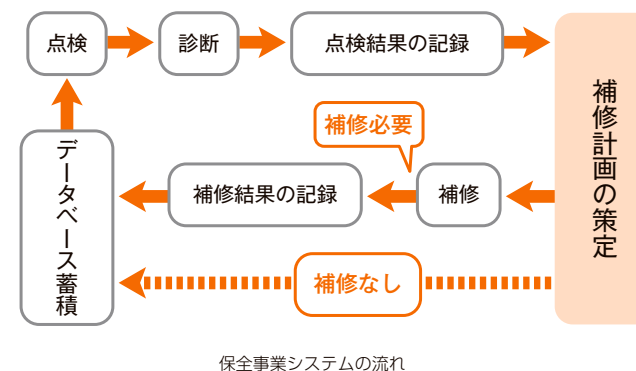
施工中

高速道路インフラの健全性の確保

保全事業システムの高度化、効率化を進めています

老朽化が進む高速道路を将来にわたって健全な状態に保つためには、構造物の状態をより正確にかつ迅速に把握・診断し、いつどのような対策を実施するのか、または監視を行っていくのかなど適切な維持補修計画を策定することが重要となります。

当社では一連の業務手順やルールを明確にして、そのサイクルが途絶えることなく継続される保全事業システムの推進に努めています。



保全事業システムの流れ

重量超過等の違反車両の取り締まりを徹底します

重量超過等の違反車両は、道路の劣化を進行させる要因となっており、重量超過等の法令違反車両に対しては、IC入り口や本線料金所を中心に、指導・取り締まりを行っています。また、特に常習的・悪質な違反者に対しては警察への告発も行っています。

また、膨大な高速道路資産を確実に点検し正確に健全性を把握するため、高解像度カメラ、赤外線カメラなどの点検支援技術の活用やタブレット端末を使った点検の記録、AIによる健全性診断の支援など点検の高度化、効率化の推進に取り組んでいます。



高解像度カメラ (Auto CIMA)



タブレットでの点検記録

そのほかにも、ジェットファンなどの道路付属設備の更新とともに頭上設備の軽量化を進めています。



軽量型ジェットファン

2019年度は、18台のジェットファンについて軽量型へ取り替えを実施しました。



取り締まりの様子

災害対応力の強化

災害に強い組織・連携ネットワークの構築

様々な機関・会社との連携ネットワークを構築しています

当社は、一般道路との緊密な連携・調整を図るため、全24府県と災害協力協定を締結しています。また、自衛隊による被災地の救助活動のため、被災地や道路状況の情報の共有化、初動対応の連携などを目的とした連携協定を締結しています。

さらに2019年度は、「災害時における社員等の宿泊施設確保等の協力に関する協定」をKNT-CTホールディングス株式会社と締結し、災害に備えた対応力の強化に取り組んでいます。



近畿日本ツーリストとの協定締結



社会

保有している技術・ノウハウの社会への展開

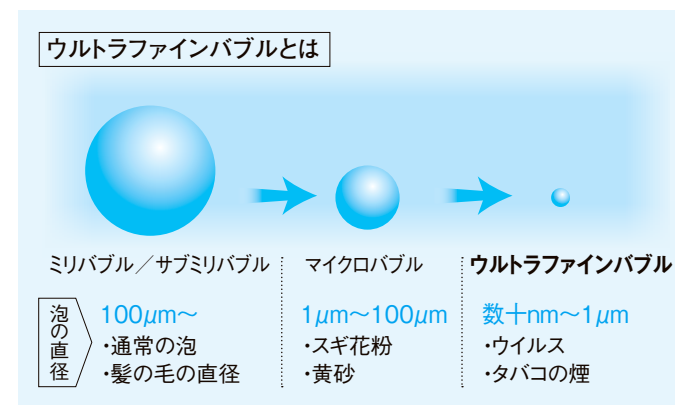
ウルトラファインバブル技術による事業創造

ウルトラファインバブルとSDGsのマッチング

ウルトラファインバブルは、気泡が1μm未満の肉眼で見ることができない大きさで、バブルが消滅するエネルギーなどによって微細な隙間に浸透しやすくなり、汚れを剥離する作用があり、洗剤等の使用量を大幅に削減させた事例があります。そのほかにも、農作物や魚の養殖などで成長を促進する事例も確認されており、多種多様な分野への適用拡大により、水利用

の効率を大幅に改善させることで、SDGsの目標6(すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する)の達成に貢献できるものと考えています。

今後もさらなる実用化に向け、SA・PAの小便器の洗浄やトンネル側壁清掃などで効果検証を進めるとともに、高速道路以外での実用化を進め、広く社会に貢献していきます。



「噴射して軽く拭くだけなので作業軽減」
(清掃スタッフの声)

【他事業導入事例】
大手町フィナンシャルシティ様
ビルの横にエコミュージアムがあり、
その一角のアーバンエコファームに導入

海外への事業展開

グループの強みを活かし、海外でも事業を展開しています

当社グループは、長年にわたる高速道路の建設・運営管理の経験によって、海外でも展開できる技術やノウハウを保有しています。

インドネシアでは、現地スタッフを擁する駐在員事務所とともに、現地企業と協働して高速道路事業に参画しています。また、技術アドバイザーを現地高速道路会社へ派遣し、建設や舗装補修の支援をしています。

アメリカでは、NEXCO-West USA, Inc. が非破壊検査技術を用いた点検業務を受注しており、2019年度はコネチカット州にある Pearl Harbor Memorial Bridge の点検を実施し、高い評価を受けました。

これらの事業活動を通じて海外の道路の品質と安全性向上に貢献するとともに、その経験を日本国内の道路事業にフィードバックすることをめざしています。



舗装補修計画会議 (インドネシア)



Pearl Harbor Memorial Bridge 点検の様子 (アメリカ)

高速道路を通じた地域連携

高速道路を通じた地域活性化

自治体と連携して、地域の観光振興に取り組んでいます

自治体や関係団体と連携した観光振興の取り組みの一つとして、ETC限定で周遊エリアの高速道路が定額で乗り放題となる「ドライブパス」を実施しています。2019年度は、関西・中国・四国・九州各地域のド

ライブパスや、訪日外国人向けの企画等を含め、約23万件ご利用いただきました。

【2019年度の主なドライブパス】



ドライブパスの申込専用サイト「みち旅」
<https://www.michitabi.com/>



ぎゅぎゅっと九州
まんきつドライブパス 2019

四国まるごとドライブパス! 2019

自治体や関連団体と連携した観光振興

カードラリーで西日本各地へGO!

各府県が選ぶ「ごじまん」の観光地やサービスエリアに設置したカードを集めて応募すると、抽選でご当地産品等のプレゼントがもらえる「お国じまんカードラリー」。2019年度は13,483人の方にご応募いただき、そのうち64人の方が全スポットを制覇されました。



ごじまんスポットで
配布するカード



2020年度からはスマートフォンからQRコードを読み込み獲得できるスタンプを集めることで、簡単に応募できるようになります。かわいいデザインが人気のカードも引き続き当社の高速道路がある24府県(全151カ所)のごじまんスポットで配布します。

※2020年夏頃開始予定



投資家・国民の皆さま

公正、透明、健全な事業活動

透明性の高い経営の推進

外部評価により透明性の向上を図っています

当社では事業の効率性・透明性の向上を図るため、社外の有識者からなる事業評価監視委員会を設置しています。毎年1回開催し、当社の高速道路事業について第三者の立場から評価をいただき、今後の事業計画に役立てています。



事業評価監視委員会の様子

積極的な情報公開

ステークホルダーとの対話

毎月の社長定例会見で情報発信をしています

当社グループの経営状況、建設・管理、関連事業等への取り組みに対する理解を深めていただくため、社長による記者会見を毎月開催し、情報発信に努めています。

また、投資家や金融機関の皆さまを対象に事業説明会を毎年開催し、経営層と直接対話いただく機会を設けています。



社長定例会見の様子（2019年11月29日）

メディアを通じた情報発信

現場等をマスコミ向けに積極的に公開しています

高速道路をご利用の皆さまの安全・安心を守る取り組み等をより身近に感じていただけるよう、作業現場等の公開を適宜行っています。

2019年度は、高速道路の休憩施設では初めてとなる曳家工法を用いた宮崎自動車道 山之口SA店舗建替工事現場や、各種訓練、雪氷対策作業の出陣式の様子等をマスコミ向けに公開しました。

また、高知高速道路事務所において、ノンストップで冬用タイヤを自動判別するシステムのデモンストレーションをマスコミ向けに公開し、実車を用いた試験走行や導入効果等についての説明を行いました。



山之口SA店舗建替工事のマスコミ公開の様子



高知高速道路事務所 冬用タイヤ自動判別システムのマスコミ公開の様子



お取引先

公正な取引関係

公正性・透明性・競争性の追求

調達に関する各種情報を公表しています

基本的な考え方

「公共調達に係る契約に関する事務を適正かつ円滑に処理し、公正性・透明性・競争性を確保しつつ会社の経営の効率化を図る」という目的達成のため、基本方針をもとに取引を行っています。



契約の基本方針

1. 競争原理と経済性の追求
2. 品質の確保とさらなる向上
3. 契約機会の提供と拡大
4. 適正な契約相手方の選定
5. 法令等の遵守

契約に関する情報公表と適正な契約相手方の選定手続きを行っています

契約手続きの透明性確保のため、工事・調査等の入札・契約情報をウェブサイト内の「調達・お取引」で公表しています。

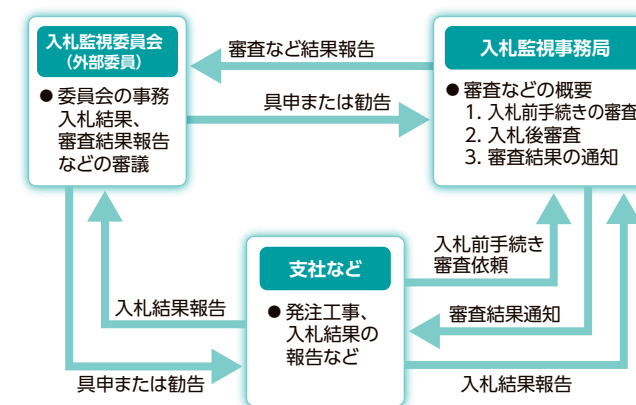
また、入札手続契約の過程及び結果について、各支社に弁護士、大学教授などの有識者からなる「入札監視委員会」を設置し定期的に審議を受け、ウェブサイト上で審議概要を公表しています。

発注事務に係る綱紀保持

発注者の綱紀保持に関する規程を制定し、発注事務に対する社会の信頼確保に向けて取り組んでいます。

この規程には、社員が遵守すべき事項として、情報の適切な管理、事業者との応接方法及びこれらに抵触した事実を確認した場合の通報義務等を定めています。

また、この取り組みについて、事業者の方々からの理解、協力を得るために、ウェブサイトや入札に関する指示書でお知らせしています。



地域のメーカー・生産者とのビジネスチャンスの拡大

地元企業とSA・PA テナントとの橋渡し

ハイウェイ商談会（ビジネスマッチング）を開催

2019年度は、金融機関と連携し3回開催しました。

- ・7月：四国地区の企業（76社）を対象に高松市内で開催
- ・9月：広島地区の企業（40社）を対象に広島市内で開催
- ・11月：岡山地区の企業（51社）を対象に岡山市内で開催



広島地区ハイウェイ商談会の様子

《成約商品例》



「海苔師の塩のり」

広島でも特に宮島は水産品の人気が高い。この商品は味も良く、目を引くパッケージであったことから販売を決定。山陽自動車道 宮島SA上り線



「ケンポロー芙蓉ポーク」

畜産品を取り扱っている業者が少ない広島県において、取り扱い商材が種類豊富で味も良く価格が手頃な畜産業者さまと商談することができ、導入を決定。中国自動車道 安佐SA下り線



「シャインマスカット」

生鮮品（果物）の導入を検討していたところ、サイズ感、価格ともにイメージしていたものに適したマスカットを見つけたためすぐに導入を決定。中国自動車道 七塚原SA下り線



グループ社員

人材の育成

人材育成の考え方

実践力を備えた高速道路事業のプロフェッショナルの育成

グループ社員一人ひとりの成長を支援します

当社グループでは、実際の業務におけるOJTや階層別・専門分野別の幅広い研修を通じて、知識・能力を高め、社員の自律的な成長を支援するとともに、グループ会社間における人材交流も実施しながら、より実践力を備えた人材の育成に努めています。

専門技術力を有する人材を継続的に育成します

当社では、『現場力』の向上を図るため、過去からの技術の変遷や先端技術を学ぶ場として、茨木技術研修センター（I-T^{アイトレ}R）を開設しています。この研修センターでは、劣化損傷した橋梁の実物などを設置し、主に「体験型研修」を実施しています。そのほかにも、ETC等の模擬環境を整備し、故障対応や接客対応などの実践的な研修も実施しています。

ここで学んだ社員が、やがて高速道路事業のプロフェッショナルに成長していくことをめざし、人材の育成に取り組んでいます。



階層別研修の様子



熊本地震被災部材を使った研修の様子

ダイバーシティ推進

違いを尊重し、個々が活躍し、進化し続けるチームへ

全社員が“仕事も生活も”充実できる環境を整備しています

当社では、社員一人ひとりの“違い”を尊重し、個人が持つ力を100%発揮できる組織づくりに取り組んでいます。

特に、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方が選べるよう、2019年に導入した時差出勤制度に加えて、新たにテレワーク制度を導入することで、社員のさらなる活躍を支援しています。

TOPICS

社員の声を取り入れた両立支援制度の整備

全社員を対象に行ったダイバーシティアンケートの声をもとに、育児・介護と仕事の両立支援制度等の整備に取り組んでいます。

育児関係制度

制 度	妊 娠	出 産	3 歳	小学校入学	小学校3年生修了
直属の上司による両立支援面談（妊娠期・休暇前・復帰前後）					
育児休業					
部分休業（1日最大2時間までの休業）					
子の看護休暇（5日・2人以上は10日/年度）					

介護関係制度

制 度	介護開始	通算184日	3 年
介護休業（3回まで分割取得可）			
介護短時間勤務（1日最大2時間までの休業）			

グループ会社の業務改善の取り組み

USIMPACT（略称：アスインパクト）の導入

高速道路上での作業の安全性向上に取り組んでいます

“わき見運転”や“居眠り運転”が原因で、高速道路上での作業中に車両と作業員が接触する事故が頻発しています。

この対策として、超音波を利用した「アスインパクト」を順次導入しています。

「アスインパクト」は、直進性があり指向性の強い超音波を一定範囲に照射し、照射範囲にさしかかった車両に超音波がぶつかることで、運転手の耳に警告音が聞こえる仕組みになっており、前方作業の注意喚起が可能となります。

2020年度からグループ会社で行う工事規制での展開を進め、以後導入の拡大を図ることで作業の安全性の向上に取り組んでいきます。



業務研究発表会の開催

グループの技術力向上や業務改善に取り組んでいます

当社グループ専門技術者の育成と技術力向上、業務改善の促進を目的としたNEXCO西日本グループ業務研究発表会を開催しています。発表された内容については、ルール化やマニュアルに取り込む等フォローアップを行い、グループ一体となって技術力向上や業務改善に取り組んでいます。

【技術研究部門】
最優秀賞

橋梁修繕計画策定ツールと個別変状判定支援システムの開発

【業務改善部門】
最優秀賞

工事管理におけるICT技術を活用した生産性向上の取り組み



表彰式の様子

CS推進大会の開催

グループ会社全体でCS向上に取り組んでいます

当社グループ社員は、高速道路の安全・安心・快適を常に意識して、常にお客さまが“どのように考えられ”“当たり前のように”ご利用いただけるかを念頭に業務に励んでいます。

そういった意識浸透の結果、積極的なCS推進行動により、多くのお褒めの言葉をいただいています。

また、CSに関する模範的な取り組みをグループ全体で共有する機会としてCS推進大会を開催し、さらなるCS意識の醸成に取り組んでいます。



表彰式の様子



環境保全

環境経営の推進

環境マネジメントの推進

「環境基本計画」を策定して活動を推進しています

当社グループは2008年に「環境方針」を制定し、2011年からは5ヵ年の中期計画として「環境基本計画」を策定して、環境保全に取り組んでいます。

環境基本計画は、環境方針の柱である「低炭素社会の実現」「循環型社会の形成」「自然と共生する社会の推進」の3テーマで構成し、環境管理会議において、毎年度、計画達成に向けた具体目標（アクションプラン）を立て、実績を評価しています。



新名神沿線の淀川では、ヨシの生育環境の保全に取り組んでいます

環境方針

西日本高速道路株式会社は、事業活動が環境に及ぼす影響を真摯に捉え、高速道路事業者としてまた社会の一員として、社員の一人ひとりが、環境の保全・改善に積極的に取り組み、持続可能な社会の形成をめざします。

取り組みの実施にあたっては、環境側面に関係する法規制等を遵守し、環境目的・目標を定めるとともに、それらを定期的に見直すことで継続的に改善します。

(2008年制定、2011年一部改定)

低炭素社会の実現に取り組めます

未来を担う世代が生活の豊かさを実感できるよう、道路空間を活用した省エネルギー、創エネルギー及び緑化の推進に取り組めます。



新名神高速道路宝塚北SAの急速充電システム

循環型社会の形成に取り組めます

天然資源の消費を抑制し、環境への負荷を低減するため、廃棄物等の発生抑制（リデュース）、循環資源の再使用（リユース）及び再生利用（リサイクル）に取り組めます。



ほかの建設工事等で発生した土砂を受け入れ、利用しています

自然と共生する社会の推進に取り組めます

人と生きものが豊かに暮らせる社会をめざし、自然環境や人々の生活環境の保全と創出に取り組めます。



高松自動車道 府中湖PAの土捨て跡地を利用して整備したビオトープ

中期計画「環境基本計画 2020」に基づくアクションプラン 2019 の取り組み

2016年度から2020年度を対象に「環境基本計画 2020」を策定、その計画に基づく年度目標「環境アクションプラン 2019」を設定し、グループ一体となって、環境保全・改善に積極的に取り組みました。

低炭素社会の実現

高速道路の自動車交通によって発生する二酸化炭素排出量を削減するための渋滞対策や、事業活動に伴う電気使用量の削減、太陽光発電の導入、及び樹林化などを実施しています。

循環型社会の形成

天然資源の消費を抑制し、事業活動に伴って発生する廃棄物の3R（Reduce[削減]・Reuse[再利用]・Recycle[再資源化]）を推進するとともに、環境負荷の少ない製品・資材を調達するグリーン調達に取り組んでいます。

自然と共生する社会の推進

動物侵入防止柵を設置するなど、野生動植物や自然環境の保全対策を反映させた道路整備を進めています。また、沿道地域の静穏な生活環境を守るため、遮音壁の新設・改良などを推進しています。

「環境基本計画 2020」及び環境アクションプラン 2019 の実績

※ CSRの重要課題(マテリアリティ)として設定されている項目についてはP45-46に記載。

実行目標計画の取り組み項目			活動内容	指標	単位	アクションプラン2019	
						目標	実績
低炭素社会の実現	省エネルギーの推進	電気使用量の削減	オフィス活動に要する電気使用量を削減する	電気使用量	kWh/㎡	2015年度実績より4%以上削減する (2015年度 153kWh/㎡)	3.7%削減 (147.4kWh/㎡)
		ガス使用量の削減	オフィス活動に要するガス使用量を抑制する	ガス使用量 (都市ガス+LPGガス)	㎡/㎡	2015年度実績より抑制する (2015年度 0.4㎡/㎡)	15%削減 (0.34㎡/㎡)
	二酸化炭素吸収源対策	道路緑化等によるCO ₂ の固定	盛土のり面等の樹林化整備を推進する	整備面積	ha	148ha	148ha
	技術開発	新技術・新材料の開発	再生アスファルト混合物の適用性を検討する	—	—	再生アスファルト混合物の適用性向上のため、再生骨材に付着している旧アスファルトの評価方法及び効率的な再生方法を検討する	新たな試験方法を考案し、旧アスファルトを効果的に再生できる添加剤を見いだした
循環型社会の形成	環境に配慮した製品・資材等の調達の推進	廃棄物の3R (リデュース、リユース、リサイクルの推進)	一般廃棄物 (資源となるものを除く)の排出量を減量する	—	kg	一般廃棄物の排出量を抑制し、分別回収に努める	一般廃棄物の排出量を抑制し、分別回収に努めた
			休憩施設での発生ゴミの再資源化を推進する (再資源可能なもの)	再資源化率	%	100%をめざす	100%
			建設発生木材の再資源化を推進する	再資源化率	%	95%以上をめざす	97.7%
			建設汚泥の再資源化を推進する	再資源化率	%	90%以上をめざす	98.2%
自然と共生する社会の推進	自然環境の保全	エコロードの推進	動物侵入防止対策を推進する(建設)	設置延長	km	4km	4.9km
			地域性苗木を設置する	設置本数	本	—	—
	生活環境の保全	道路交通騒音対策	高機能舗装の敷設を推進する	敷設延長	車線・km	60車線・km	86車線・km



社会貢献

社会貢献活動

当社グループでは、「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」というCSR活動方針のもと、事業以外においては、グループのノウハウを活かすべく事業活動に親和性の高い分野で活動することを基本としています。またボランティアや地域連携イベントへの参画については、社員本人やグループ会社の主体性を尊重しており、「安全」「環境」「就労支援」「地域貢献」の各分野で取り組んでいます。

「安全」への取り組み

交通安全の啓発や利用方法の紹介 地域の高齢者やお身体の不自由な方向けの講習会を開催しています

高齢者やお身体の不自由な方向けに、地域の警察や交通安全協議会、市町村、福祉関係団体等と連携し、各種講習会を行っています。

シルバー講習会では実際に料金所にお越しいただき、ETC設備等をご覧いただきながら、トラブル時の利用方法や逆走防止の観点からICを降り間違っ際の利用方法などを紹介するとともに、交通安全の啓発を呼び掛けています。

また、お身体の不自由な方向けの講習会では、料金精算機の模型を用いて通行料金の支払い方や係員の呼び出し方などをお伝えし、高速道路を利用される時の不安を少しでも解消いただけるよう取り組んでいます。

今後も地域の皆さまが安全に快適に暮らせるよう各地域で開催していきます。



シルバー講習会の様子



お身体の不自由な方向けの講習会の様子

「環境」への取り組み

「つなぎの森」活動 西日本各地で森林再生に取り組んでいます

2008年度から西日本各地の地方自治体と協定を締結し、森林保全に取り組んでいます。2019年度はグループ社員やその家族が参加し、植林した木の生育の

妨げとなる雑草の草刈りや植樹活動を2ヵ所で行いました。今後も引き続き、西日本各地で自治体などと協力し、森林保全に取り組んでいきます。



つなぎの森 南紀龍神 下草刈り活動の様子と参加者



つなぎの森 四国 大豊町 植樹活動の様子と参加者

「就労支援」への取り組み

「障がい者支援施設」への業務委託 障がい者の方への就労支援に取り組んでいます

当社グループ会社では、高速道路メンテナンスにおける軽作業の就労機会を障がい者支援施設に提供しています。SAでは、草花の植え付け作業を依頼させていただき、白、黄、ピンク、紫、オレンジなど、色とりどりの花を工夫して植え付けていただいています。

支援施設の方からは「施設外で作業を行うことで、普段と違う仕事ができ、就労をめざしている方にとってイメージ作りができる良い機会となっています。」とお言葉をいただいています。これからも障がいのある方の自立支援の貢献に取り組んでいきます。



中国自動車道 安佐SAでの草花植え付け作業の様子

「地域貢献」への取り組み

メンテナンス技術を活用した地域支援 小中学校の草刈・樹木剪定に協力させていただきました

当社グループ会社では、事業所の周辺にある小中学校等の美化活動に参加し、草刈りや樹木剪定作業を実施しています。

下関事業所の近くにある中学校では、生徒をはじめPTAや地域ボランティアの方とともに草刈りや樹木の剪定を行うとともに、普段の清掃では手の届かないネットに絡みついたツタを、高所作業車を使用して除去するなど、高速道路のメンテナンスで培った技術を活かし、地域の皆さまと親睦を深めながら作業を行っています。

また、中学校から要望をいただき2019年12月には門松作り体験イベントを開催し、子どもたちと日本

の文化にふれあう大変良い機会をいただきました。

今後もこうした活動を通して、当社グループが有する技術を活用し、地域や子どもたちの育成に貢献していきます。



ネットに絡みついたツタの除去の様子



門松作りの様子

学生や地域の子どものための教育支援 校外学習活動協力として職場体験学習を実施しています

当社グループの料金収受会社では、地域との交流を図り、高速道路や料金所への理解を深めていただくために、地元小中学生に対して職場見学会や料金所での職場体験学習を実施しています。

具体的には、発券機横での通行券の手渡しや料金所ブースでの料金収受などを体験してもらっています。実際に高速道路を利用するお客さまから「がんばれ」と励ましの言葉をいただき、子どもたちも真剣に料金収受に取り組んでいました。

今後もこうした校外学習活動への支援を通じ、地域の将来を担う子どもたちの育成に貢献する活動に取り組んでいきます。



料金所職場体験学習の様子



CSRの重要課題(マテリアリティ)と取り組み状況

当社グループでは、「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」というCSR活動方針のもと、ステークホルダーとの対話で得られたご意見を参考にしながら、CSRの重要課題を特定しています。

また、2030年に向けて世界的な優先課題やあるべき姿を明らかにしている「持続可能な開発目標(SDGs)」に、当社グループのマテリアリティを中心とする関連した取り組みを通じて貢献することをめざしています。

持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals:SDGs)

















2015年9月、国連サミットにて「持続可能な開発目標(SDGs)」が全会一致で採択されました。2030年までに達成するべく、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動等に関する17のゴールが宣言されています。



重要課題		ステークホルダー 参画の機会(参加者)	重要である理由	KPI(マネジメントアプローチ)					KPI(マネジメントアプローチ)	関連ページ			
				管理のポイント・指標	目標	実績	次年度の目標	集計範囲			関連するSDGs		
 お客さま	交通安全の 取り組み	<ul style="list-style-type: none">●お客さまセンター (高速道路利用者)●SA・PAに設置した利用 者向け投書コーナー 「ハイウェイポスト」 (高速道路利用者)	高速道路での交通事故は、死 傷事故など重大な事故につ ながります。	死傷事故率※1(自動車走行車両1億台kmあたりの 死傷事故件数)	5.4件/億台km	4.6件/億台km	後日、ウェブサイト に掲載	NEXCO西日本事業エリア の全国路線網		27ページ			
				車限令違反車両取締件数(高速道路上で実施した 車限令違反車両取締における措置命令件数)	—	492件	—			32ページ			
				逆走事案件数※1(交通事故または車両確保に至った 逆走事案の件数)	—	85件	—			26ページ			
				人等の立入事案件数(歩行者、自転車、原動機付自 転車等が高速道路に立入り、保護した事案の件数)	—	983件	—			—			
	快適な高速道路 空間の提供	<ul style="list-style-type: none">●SA・PAインフォメー ション(高速道路利用者)●CS推進オピニオンリー ダー意見交換会 (外部有識者)●現場責任者会議等 (SA・PAテナント会社)●包括協定、連携協定 (各地域の地方公共団体)	高速道路の円滑な交通を24 時間365日確保することによ って、国民生活を豊かにし、 経済活動を支えることが、当 社の責務です。	顧客満足度(CS調査で把握する維持管理に関する お客さまの満足度(5段階評価))	3.6ポイント	3.7ポイント	後日、ウェブサイト に掲載			38ページ			
				年間利用台数	—	1,081百万台				—	—		
				通行止め時間(単位営業延長(上下線別)あたりの雨、 雪、事故、工事等に伴う年平均通行止め時間)	—	46時間				—	WEB		
				本線渋滞損失時間※1(渋滞が発生することによ るお客さまの年間損失時間)	—	661万台・時				—	WEB		
				路上工事による交通規制時間(道路1kmあたりの 路上作業に伴う交通規制時間)	—	126時間/km				—	WEB		
				SA・PAのお客さま 満足施設への変革	高速道路は基本的なインフラ であり、誰もが利用しやすい 施設であることが求められま す。	Wi-Fiサービスの提供カ所数				—	194カ所	—	
SA・PAインフォメーションの日本政府観光局 (JNTO)の外国人観光案内所認定数(カテゴリー1)	—	68カ所	—	30ページ									
 社会	社会基盤である 高速道路の整備と 長期保全	<ul style="list-style-type: none">●事業説明会(地域住民)●設計協議(地域住民)	高速道路ネットワークは、国民 生活を豊かにし、経済活動を 支える、基礎的な社会資本で す。また、輸送コストの削減や 交通事故の減少にも貢献して います。	新規開通路線延長(2車線⇒4車線化)	8.3km	8.3km	10.2km	NEXCO西日本事業エリア	 	21ページ			
				スマートIC新規設置カ所数(出入口の追加設置は除く)	4カ所	4カ所	—			31ページ			
				災害対応力の強化	<ul style="list-style-type: none">●お客さまセンター (高速道路利用者)●SA・PAに設置した利用 者向け投書コーナー 「ハイウェイポスト」 (高速道路利用者)	管理する道路の多くが建設か ら30年以上を経過し、補修を 必要とする道路構造物が増加 しています。	快適走行路面率 (快適に走行できる舗装路面の車線延長)		98%	98%	後日、ウェブサイト に掲載		WEB
							南海トラフ地震被害に備えての 資機材の新規備蓄箇所		3カ所 累計 241カ所	3カ所 累計 241カ所	4カ所 累計 245カ所		WEB
	高速道路を通じた 地域連携	<ul style="list-style-type: none">●包括協定、連携協定 (各地域の地方公共団体)	災害発生時、高速道路には、被 災地域の救急・復旧・復興の インフラとしての役割が求めら れています。	地域物産展実施エリア	—	62カ所	—		 	WEB			
				地元が販売・イベント等によりSA・PAを利用した日数	—	のべ3,440日	—			30ページ			
				ウェルカムゲート(一般道からSA・PAに立ち寄れる ゲート)新規設置数	—	2カ所 (累計75カ所)	—						
				地域振興や観光振興を目的とした企画割引等の販売件数	—	227千件	—			34ページ			
	 投資家・国民の皆さま	透明性の高い経営と 着実な債務の返済	●事業評価監視委員会 (財界・学術界の外部 有識者)	国民の財産である高速道路を管 理する事業者として、透明性の高 い経営が求められています。 また、高速道路機構の債務返済 を着実なものにしていくため、経 営の効率化が求められています。	高速道路機構の債務削減	11ページの「高速道路機構の債務残高」を ご覧ください。			(旧道路関係4公団)		11ページ		
		積極的な情報公開	<ul style="list-style-type: none">●事業説明会(機関投資家)●個別投資家訪問(機関 投資家)●記者会見(マスメディア)●アンケート調査(レポート 読者)	ステークホルダーから理解・ 信頼・期待される企業となる ために、積極的な情報公開と コミュニケーション活動が重 要だと考えています。	社長定例会見(毎月開催)	—	11回		—	NEXCO西日本		35ページ	
Facebookを活用した広報展開(NEXCO西日本 公式Facebook登録者数の増)					登録者数 30,000人	登録者数 28,500人	—	WEB					
CSR報告書での企業活動報告					1回	1回	1回	NEXCO西日本グループ	50ページ				

※1 集計期間：2019年1月1日～12月31日

CSRの重要課題(マテリアリティ)と取り組み状況

重要課題		ステークホルダー 参画の機会(参加者)	重要である理由	KPI(マネジメントアプローチ)		KPI(マネジメントアプローチ)					関連ページ
				管理のポイント・指標	目標	実績	次年度の目標	集計範囲	関連するSDGs		
	公正な取引関係	● 入札監視委員会 (外部有識者)	国民の財産である高速道路の建設・管理を担う会社として、公共調達に係る契約の透明性の確保が求められています。	入札監視委員会の実施回数	――	8回 (各支社2回)	――	NEXCO西日本		36ページ	
	SA・PAの テナント会社との 協働	● 現場責任者会議等 (SA・PAテナント会社)	お客さまの多様なニーズに応えるため、SA・PAのお取引先さまとの協働を重視しています。	安全・安心にかかる講習等	――	年2回	――	飲食物販テナント事業者		――	
				誤給油防止訓練	――	年2回	――	元売テナント事業者等		――	
	「安全・安心、 信頼され成長する 企業グループ」を 担う人材の育成	● キャリア相談窓口 (NEXCO西日本社員) ● 経営懇談会、労使協議会 (NEXCO西日本労働組合員) ● 外部講師による研修 (グループ社員)	中期経営計画に定めた「安全・安心、信頼され成長する企業グループ」を実現するため、一人ひとりが仕事を通じて自律的に成長していける人材育成と、組織・会社の自己変革が重要だと考えています。	階層・職種別研修	――	のべ 928回	――	NEXCO西日本グループ	 	37ページ	
				資格取得支援制度の利用者数	――	257人	――	NEXCO西日本		――	
				女性管理職者比率	――	9.4%	――	NEXCO西日本グループ			――
	低炭素社会の実現	● 各種の対話の機会を通じた環境コミュニケーション(お客さま、地域住民、従業員、専門家)	高速道路では、自動車から大量のCO ₂ が排出されるため、道路運営全体で、その排出量削減が求められています。	● 環境アクションプラン ● 省エネ活動	道路施設の維持管理に要する電気使用量	2015年度実績より5.5%以上削減する (2015年度73.9千kWh/km)	2%削減	2015年度実績より3%以上削減する (2015年度73.9千kWh/km)	NEXCO西日本事業エリア	 	40ページ
				新設料金所等に太陽光発電を設置する	10kW	0kW	10kW	――		40ページ	
				次世代車両用スタンド整備に向けた新エネルギー補充用技術を開発する	電気自動車用急速充電設備を新たに4基増設する	4基増設完了 草津PA2基 (上下各1基) 古賀SA2基 (上下各1基)	電気自動車用急速充電設備を新たに2基増設する	NEXCO西日本事業エリアのSA・PA			40ページ
	循環型社会の形成		高速道路の建設では、大量の建設副産物が発生するため、その削減が求められています。	● 環境アクションプラン ● 環境物品等の調達の推進	事務用品における特定調達物品等の調達率	100%	100% (規格等により適合商品がない場合を除く)	100%	NEXCO西日本	 	40ページ
					植物系廃棄物(草刈り等)の再生資源化率	95%以上	96.0%	95%以上	NEXCO西日本事業エリア		40ページ
					建設発生土の再利用率	80%以上	99.0%	80%以上			40ページ
					アスファルトコンクリート塊の再生資源化率	99%以上	99.9%	99%以上			40ページ
					コンクリート塊の再生資源化率	99%以上	100%	99%以上			40ページ
					自然と共生する 社会の推進	● 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) ● 鶯殿ヨシ原の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) その他、必要に応じて外部委員会を設置	高速道路の建設では、沿道地域の自然環境に影響を及ぼすため、その影響の緩和が重要になります。また、沿道地域の生活環境を守るため、道路交通による騒音の低減が求められています。	● 環境アクションプラン ● エコロード(自然に優しい道路づくり)の推進 ● 周辺の生活環境への影響を減らす道路づくり	動物侵入防止対策の設置・改良箇所		92カ所
	遮音壁の設置(設置延長)	0.7km	0.7km	――					40ページ		
		「安全」「環境」「地域貢献」の 取り組み	● 高速道路交通警察隊(当事業エリアの各府県) ● 高速道路安全協議会(当事業エリアの各府県)	社会インフラを管理する公共性の高い企業として、地域社会への貢献が求められています。	交通安全啓発活動	――	のべ91回	――	NEXCO西日本グループ	 	41ページ
					職場周辺や各地域での清掃活動	――	のべ1,754回 11,488人	――	42ページ		
					つなぎの森活動	――	2カ所	――	NEXCO西日本管内5カ所		41ページ

連結損益計算書

(単位：億円)				
区分		2019年度	2018年度	増減
営業収益	高速道路事業	10,409	10,288	120
	料金収入	7,982	7,826	155
	道路資産完成高	2,396	2,433	▲ 36
	その他	30	29	1
	関連事業	461	494	▲ 33
	SA・PA事業	330	337	▲ 6
	その他の事業	130	157	▲ 27
計		10,870	10,783	86
営業費用	高速道路事業	10,383	10,246	136
	道路資産賃借料	5,708	5,603	105
	道路資産完成原価	2,396	2,433	▲ 36
	管理費用	2,278	2,209	68
	関連事業	419	436	▲ 17
	SA・PA事業	298	291	7
	その他の事業	120	145	▲ 24
計		10,802	10,683	119
営業利益	高速道路事業	25	41	▲ 16
	跨道橋耐震対策事業を除く高速道路事業営業利益 ^{※1}	(62)	(50)	(12)
	関連事業	41	58	▲ 16
	(うちSA・PA事業)	32	46	▲ 13
計		67	100	▲ 32
経常利益		96	129	▲ 32
当期純利益 ^{※2}		65	98	▲ 32
跨道橋耐震対策事業を除く当期純利益 ^{※3}		(102)	(106)	▲ 4

※1 高速道路の安全な交通を確保するため、自治体が管理する高速道路を跨ぐ道路(跨道橋)に対する耐震対策事業であり、高速道路事業の利益剰余金より充当されることから、参考として当該事業を除いた高速道路事業営業利益を記載しています。

※2 「当期純利益」には、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。

※3 前期比較のため、「跨道橋耐震対策事業」を除いた当期純利益を記載しています。

※4 億円未満は切り捨てで表示しています。

主要な経営指標等の推移

回次		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
営業収益	(億円)	8,841	9,352	16,213	10,783	10,870
経常利益	(億円)	128	114	73	129	96
親会社株主に帰属する 当期純利益	(億円)	73	159	230	98	65
純資産額	(億円)	1,567	1,798	1,990	2,124	2,205
総資産額	(億円)	11,758	14,385	11,706	13,950	13,804
1株当たり純資産額	(円)	1,648.61	1,891.16	2,093.11	2,234.61	2,319.51
1株当たり当期純利益金額	(円)	77.60	167.91	242.37	103.32	68.76
自己資本比率	(%)	13.3	12.5	17.0	15.2	16.0
自己資本利益率	(%)	4.6	9.5	12.2	4.8	3.0

(注)「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)等を「2018 連結会計年度」の期首から適用しており、「2017 連結会計年度」に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっています。

※ 億円未満は切り捨てで表示しています。

高速道路事業トピックス

- 2019年度の当社管内の高速道路の通行台数は、新型コロナウイルス感染症の影響により交通量の減はあったものの、前期比2.0%増の301万台／日となり、料金収入は、対前期155億円増の7,982億円、その他収入は30億円となり、その結果、道路資産完成高を除く高速道路営業収益は対前期157億円増の8,012億円となりました。
- 営業費用のうち、高速道路機構に対する道路資産賃借料は、対前期105億円増の5,708億円となりました。
- 管理費用は、第二京阪道路(阪神高速8号京都線)及び第二阪奈道路の移管などにより、対前期68億円増の2,278億円となりました。
- 以上のことから、高速道路事業の営業利益は対前期16億円減の25億円となりました。
- 道路資産完成高は、第二阪奈道路の移管等がありましたが、高松自動車道4車線事業(鳴門インターチェンジ～高松市境)などの一部完了があった前期からは36億円減の2,396億円となりました。
- なお、道路建設にかかった経費と同額の債務を高速道路機構に引き渡すため、道路資産完成高は道路資産完成原価と同額となり、道路建設から利益や損失は発生しません。

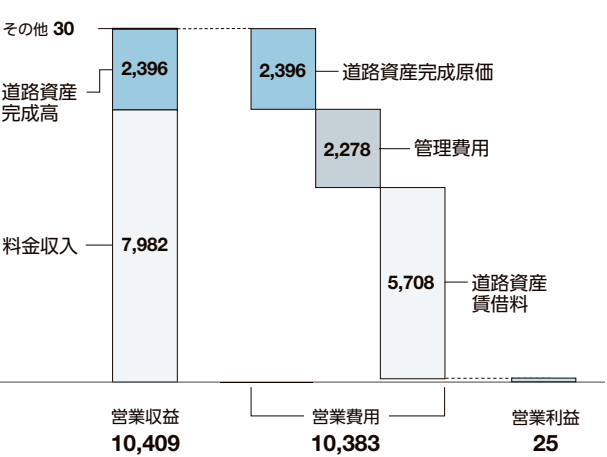
関連事業トピックス

- SA・PA事業の営業利益は、新型コロナウイルス感染症の影響による収益の減少や消費税率の変更に伴うシステム改修等による費用の増加により、対前期13億円減の32億円となりました。
- 関連事業全体の営業利益は、対前期16億円減の41億円となりました。

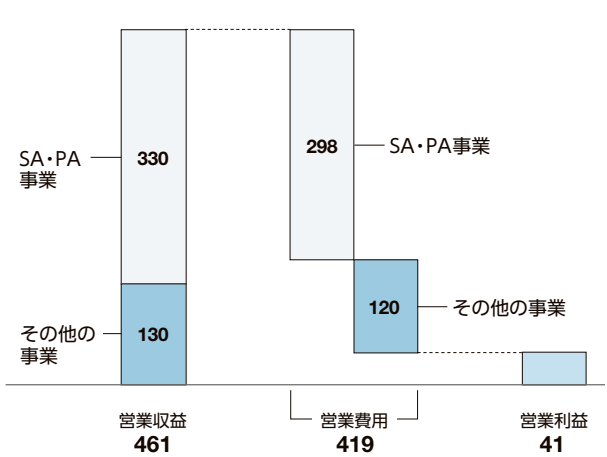
全事業の業績

- 当期純利益は、対前期32億円減の65億円となりました。
- なお、跨道橋耐震対策事業を除いた当期純利益は、対前期4億円減の102億円となります。

高速道路事業の損益 (単位：億円)



関連事業の損益 (単位：億円)



※ 億円未満は切り捨てで表示しています。

NEXCO 西日本グループ 税務ポリシー

NEXCO西日本グループは、グループ理念や行動憲章に基づき適正な納税をおこないます。また、社会基盤を支える高速道路会社として良好な財務体質を維持するとともに、社会貢献の一つとして社会的責任を果たします。

われわれは、この税務ポリシーに基づき、公正性や透明性を確保し、適切な会計・税務管理を実施していきます。

1. 法令遵守

NEXCO西日本グループは、法人税法や消費税法等を常に遵守するとともに税法改正を適時適切に把握して適正な納税義務を果たします。

2. 税務コーポレートガバナンス

NEXCO西日本グループは、社内外の講習等を通じて社員の税務知識向上を目指すとともに、社内規程等に基づく適正な実務遂行により、税務コンプライアンスの充実を図ります。また、法令等に基づかない税務上の判断や節税、脱税はおこないません。

3. 税務当局との関係

NEXCO西日本グループは、税務リスクが懸念される取引について、顧問税理士等を交えた十分な検討をおこなうことでリスク回避に努め、税務当局との良好な関係を維持します。

また、税務当局からの情報開示要請等には適切に対応するとともに、税務的判断に見解の相違が生じた場合は真摯な対応で解消に努めます。



関西大学
社会安全学部 教授
土田 昭司 様

NEXCO西日本グループレポート2020では、昨今多発している集中豪雨による災害対応、道路構造物の大規模更新など、写真・イラスト等を用いて、ステークホルダーにわかりやすく高速道路の安全・安心への取り組みが示されている。

2020年は社会環境に変革をもたらした大きな出来事として、新型コロナウイルス (Covid-19) 感染症の世界的な流行があげられる。政府・自治体は、県境をまたぐ往來の自粛など国民に高度な自粛生活を要請し、現在、自粛要請は新たな感染者数の減少などに応じて緩和されつつある。今後2年程度以上はかかるであろうワクチンの開発・普及を踏まえれば、長期間の自粛生活により、国民の生活様式に少なからざる変化をもたらすものと考えられる。

勤労の場では、テレワークの進展や印鑑主義の廃止などを伴いながら出社しなくてもよい就業形態が広まり、会議・打ち合わせのための出張が減少してゆくであろう。

第三者意見をうけて



代表取締役
専務執行役員
芝村 善治

今年度の第三者意見は、関西大学社会安全学部教授の土田昭司様からいただきました。貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の急速な蔓延により、都道府県を跨ぐ移動の自粛がなされ、交通量が大幅に減少しました。これにより、料金収入やSA・PAの売り上げは、大幅な落ち込みとなり、さらに「新しい生活様式」などの取り組みにより、交通量が以前の水準に戻るまでには、相当程度の時間がかかるものと考えています。

また、物流の増加については、ダブル連結トラックの利用促進に向けた駐車マスの整備を推進するとともに、

私生活においても、例えば遠方の親戚との法事などはネットで出席できるようになるかもしれない。レジャーでは、バーチャルリアリティ (仮想現実) による高品質の疑似体験の提供が進めば、高齢者や子どもを中心に遠距離への旅行が減少すると考えられる。他方で、ネットによる購買形態が進展することによって近距離の小口物流のみならず、ネット店舗が基本的に広域に分布していることから長距離の小口物流が増大すると考えられる。

このような生活様式の変化は未来学として以前から指摘されてきたものではあるが、あたかも戦争が船舶、航空機、コンピュータの発達を大きく加速させた歴史と同じように、新型コロナウイルス感染症流行がその実現を加速させるように思われる。

高速道路にとっては、このような生活様式の変化は物流の増加と人の移動の減少として現れると推測される。新名神高速道路の6車線化による物流の自動運転化に向けた環境整備が進められており、遠くない将来に高速道路はトラックすべてを鉄道のごとく中央制御するようになる可能性もある。一方で、人は必要であるから高速道路で移動することよりも、高速道路で移動する楽しみを求めて利用するようになるであろう。SA・PAでの非日常の体験や高速道路の確実なメンテナンスにより、楽しく安全に利用できる高速道路であることがより一層求められており、これらが今後のNEXCO西日本グループの成長の要になるだろう。

後続車無人隊列走行の実現を見据えた新名神高速道路の6車線化を進めるなど、高速トラック輸送の効率化に向け様々な取り組みを進めてまいります。

SA・PAにおいては、「新しい生活様式」の一環としてキャッシュレス決済の拡充を進めています。また、子育て応援として、ベビーコーナーの整備を推進するとともに、液体ミルクの販売を開始しました。今後は、デジタル技術の積極的な活用や地域とのさらなる連携強化により、顧客体験価値を重視したサービスの提供をめざしてまいります。

高速道路のメンテナンスにおいては、インフラ長寿命化基本計画等にもとづき、橋梁などの対象施設の点検をすべて完了し、順次計画的に修繕工事を実施しています。また、法定点検は5年に1回のサイクルとされており、2019年度からは2巡目となる点検を開始し、高速道路の安全・安心を届けてまいります。

頂戴したご提言を踏まえ、グループ理念である「私たちはリスクマネジメントを徹底し、高速道路の安全・安心を最優先に、お客さまの満足度を高め、地域の発展に寄与することにより、社会から信頼され成長する企業グループをめざします。」の実現をめざしてまいります。

当社グループでは、ステークホルダーの皆さまにCSRに対する考え方や取り組みを分かりやすくお伝えするとともに、ご意見・ご期待を把握するためのコミュニケーションツールとして、「NEXCO西日本グループレポート」を編集し・発行しています。

本レポートは、2019年度中の事業活動を中心に社会的に関心が高く、タイムリーな話題を5つの特集として掲載するとともに、各ステークホルダーの皆さまと密接に関係する事業活動を掲載しています。また、ビジュアルを多用することで、高速道路に関する学生から高齢者の方まで幅広くお読みいただけるレポートをめざしました。

報告対象期間：

2019年4月1日～2020年3月31日
(一部2020年4月1日以降の内容も含まれます)

発行時期：

2020年7月(前回2019年7月、次回予定2021年7月)

参考にしたガイドライン等：

- 環境省「環境報告ガイドライン2018年版」
- GRIスタンダード
- 国連グローバル・コンパクト10原則に関する報告
- (財)日本規格協会「ISO26000:2010」(企業を含むあらゆる種類の組織の社会的責任に関する包括的ガイダンス)

レポート2019へのアンケート結果

多くの皆さまからアンケートにご回答いただきまして誠にありがとうございました。

お褒めのお言葉やさらなる改善など、様々なご意見を参考にNEXCO西日本グループレポート2020を発行させていただきました。

ぜひ、NEXCO西日本グループレポート2020へのアンケートにつきましても、ご協力の程お願い申し上げます。

レポートへの主なご意見と改善のポイント

ご意見

文章が長くて読みづらく、また専門用語が多くて分かりづらく感じた。

改善ポイント

文章はできるだけ要点を簡潔にまとめ、写真やイラストを多用することで、読みやすくなるよう工夫するとともに、掲載記事の厳選により興味を持てただけよう工夫しました。また、専門用語を極力使わず、一般的に使用されている言葉に置き換えるなど、分かりやすいレポートの作成に心がけました。

ご意見

近年増加している逆走防止への具体的な対策を知りたい。

改善ポイント

逆走防止への今後の取り組みについて、特集記事にて紹介しています。

